

孟德斯鳩著
何禮之重譯

萬法精理

第廿冊
自卷廿六
至卷廿七

福岡第一師範學校
(學校圖書)

登錄第	號
社會科學門	
法律法學部	
總記	裝書項
日	次
全 18 冊	內第 14 冊
分類第	號
320.8	

校學範師國訓

書	門
部	
番	
號	
18 冊 / 內	

T1A1

23

Ka11ba

324
Mo 38
(14)

圖書 和圖書 遡



福岡教育大学蔵書

孟德斯鳩著
何禮之重譯

萬法精理

明治九年
一月刻成
何氏藏版

萬法精理第十四冊目次

卷之廿六 法律ヲ定ムヘキ事物ノ順序ニ關涉スル

原理ヲ論ス

第一回 大意

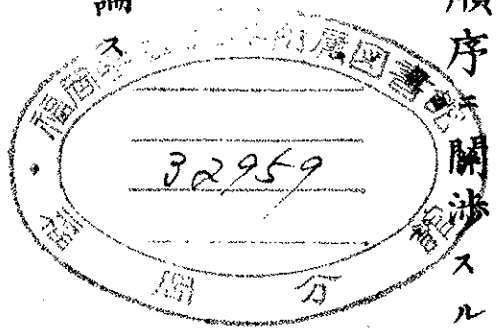
第二回 神法人法ノ別

第三回 性法ニ反シタル人法ヲ論ス

第四回 全上

第五回 人法ノ主義ニ從ツテ性法ノ主義ヲ制限スヘキ例格

第六回 承續ノ順序ハ當ニ政法民法ノ主義ニ基



萬法精理

卷之廿六 目次

クヘク性法ニ從フ可ラス

第七回 教義ヲ以テ性法ニ屬スルヲ裁判ス可
ラス

第八回 民法ノ主義ヲ以テ整理スベキ事ヲ教會
律ノ主義ヲ以テ整理ス可ラス

第九回 民法ノ主義ヲ以テ整理スベキ事ヲ教義
ヲ以テ整理ス可ラス

第十回 民法ノ許ス所ニ從フテ教義ノ禁スル所
ニ從ハサルノ分界如何

第十一回 現世ノ法院ハ決シテ來世ノ禍福ニ關涉

スル法訣ヲ用フ可ラサル事

第十二回 全上

第十三回 婚姻ニ就テ教義ニ從フヘキト民法ニ從
フヘキトノ分界

第十四回 性法及ヒ民法ニ於テ親屬結婚ノ規則ヲ
制定シ且之ヲ許否スルノ場合ヲ論ス

第十五回 政法ノ主義ヲ以テ民法ノ主義ニ屬スル
モノヲ管理ス可ラザル事

第十六回 當ニ政法主義ヲ以テ決定スヘキモノヲ
民法主義ニ依テ決定ス可ラサル事

第十七回 前回ノ續キ

第十八回 皮相ニテ矛盾スル所ノ法律モ或ハ同
一種類ニ屬スルナキヤヲ檢校セザル
可ラサル事

第十九回 民法ヲ以テ家法ノ當サニ裁決スヘキ
モノヲ裁決ス可ラサル事

第二十回 民法ヲ以テ國際法ノ當サニ決定スヘ
キモノヲ決定ス可ラサル事

第二十一回 政法ヲ以テ國際法ニ屬スル所ノモノ
ヲ決定ス可ラサル事

第廿二回 インカ、アトアルパノ慘境ヲ記ス

第廿三回 若シ當時ノ事情ニ依リテ政法却テ國

家ノ不利ト爲ルハ則チ之ヲ維持ス

ヘキ政法ニシテ時ニ依リテハ國際法

トナルモノヲ用キテ決定スヘキ事

第廿四回 警察規則ハ自餘ノ民法ト生質ヲ異ニ
スヘキ事

第廿五回 原ト特別ノ規則ニ從フヘキ事ニ於テ
ハ決シテ民法ノ通則ニ從フ可ラサル
事

卷之二十七

第一回 羅馬承襲律ノ根原及ヒ沿革ヲ論ス

萬法精理卷之二十六

何禮之譯

法律ヲ定ム可キ事物ノ順序ニ關涉スル原理ヲ論ス

第一回 大意

人ヲ治ムルノ法律一ナラス性法アリ、神法、教法アリ、教會律教制ニ關スル法律アリ、全地球ヲ一社ト視、一國ノ人民ヲ一人ト視、之ヲ治ムルノ人法即チ國際法アリ、社會組織ノ淵源タル人智ニ關涉スル所ノ通立政法アリ、各社會ノ目的トスル所ノ特立政法アリ、甲國民ノ強力或ハ權

理ニ仗リテハ國民ヲ壓制スル戰勝法アリ、甲ノ私人ヲ
シテ自餘ノ私人ノ強暴ニ對シテ性命財産ヲ防護セシ
ムヘキ一社會ノ民法アリ、一社會ノ人既ニ分レテ各門
戸ヲ立レハ必ス一家ノ内政ヲ脩齊スル所ノ法律ナカ
ル可ラサルナリ

法律ニ次序品類アル斯ノ如シ、然レハ國家民人ノ爲メ
法ヲ立テ制ヲ設クルニ方テハ須ラク主要ナル關涉ノ
存スル所ヲ審知シテ變理其宜ヲ失セス治人ノ主義ヲ
混亂スルヲ無キヲ要ス、之ヲ高見遠識ノ政圖ト稱ス

第二回 神法人法ノ別

神法ヲ以テ人法ノ應サニ決定スヘキモノヲ決定スヘ
カラス又人法ヲ以テ神法ノ應サニ決定スヘキモノヲ
決定スヘカラス

夫レ神法人法ノ二類ハ原因、目的、性質皆ナ全ク相異ナ
レハ彼此ヲ混同スヘカラサルナリ

人法ノ性質ノ全ク神法即チ教法ト相異ナルハ普ク人
ノ認知スル所ニシテ其揆ヲ一ニセサル所乃チ至要ノ
主義ノ存スル所ナリ然ルニ此主義亦タ一樣ニアラサ
レハ其詳細ヲ下文ニ推究セントス

第一 人法ノ性質ハ時勢ノ潮流ニ順ヒ人意ノ變換

ニ應シテ改革定マリ無シ之ニ反シテ教法ハ始終一定シテ性質絶テ變化セス蓋シ人法ハ善ヲ期シ教法ハ至善ヲ目的ト定メ二法制定ノ趣意固ヨリ同シカラス善ト云ヘハ汎クシテ其中自ラ大小ノ差ナキ能ハサレ氏至善ハ唯一ノ極處ニシテ以テ更ニ加フベキ無シ故ニ人法ハ一步ニテモ進善ノ趣意アレハ時ニ改革ヲ加フヘシト雖モ教法ハ至善ニシテ更ニ變改スルコトナシ

第二 某國ノ如キハ國君ノ喜怒ニ從テ法律ノ輕重ヲ致シ更ニ固有ノ效力無キヲ以テ若シ教法ヲシテ

人類ノ制作ニ成ルモノト性質ヲ同シクセシメハ教法モ復タ時ニ浮沉シテ恃ムニ足ラサルヘシ然ルニ社會安全ノ爲メニ之ヲ謀ルニ必ス一定ノ準度ナカル可ラス此目的ヲ達シテ動カサルハ獨リ宗教アルノミ

第三 教法ノ作用ハ人ノ信仰ニ淵源シ人法ノ作用ハ畏懼ニ淵源ス抑モ人情ハ歲月ヲ閱スルノ長短ニ從テ信憑ノ厚薄アルカ故ニ古俗舊慣ハ概ネ宗教ニ依頼シテ保存セラル、コ多シ是レ往古ノ事ハ邈矣トシテ今人其現況ヲ目撃セサルヲ以テ之ニ密附セ

ル不便不利ヲ親知セサレハナリ之ニ反シテ人法ノ利益ハ日新改良ニ外ナラス其作用ノ良否ハ全ク制法者カ之ヲ實施スル時ノ注意如何ニ在リ

第三回 性法ニ反シタル人法ヲ論ス

プラトー曰ク若シ奴隸アリ其身ヲ防護スルニ因テ自
主人ヲ殺スヲアラハ之ニ擬スルニ父ヲ弑スルノ罪ヲ
以テス可シト此法律ハ性法ニテ賦與セラル、自護ノ
天權ヲ行フモノヲ罰スルニ當レリ

英王顯理第八世ノ制定ニ係ル證人ノ對決ヲ待タスレ
テ罪案ヲ擬定スル法律ハ自護ノ天權ヲ顧ミサルモノ

ト謂フヘシ何トナレハ證人ノ對決ヲ待テ之ヲ擬定ス
ルモ其ノ證明スル所ハ果シテ證人ノ本心ヨリ告發セ
ント欲スル罪人ナルカ且ツ其罪ヲ告發セラル、人ハ
果シテ己カ冤枉ヲ鳴スヘキ自由ヲ享用スルカヲ審知
スルヲ要スレハナリ

該王ノ時復タ一法ヲ制定シテ凡ソ后妃ニ撰マル、所
ノ婦人ハ必ス其冊立ノ前ニ他入ト私通セルノ有無ヲ
誓言セシメ寔ヲ吐サレハ罰典ニ處セラレタリ婦人ヲ
強迫シテ此誓言ヲ立テシムルハ猶ホ男子ヲ制止シテ
己カ身命ヲ防護スルヲ許サ、ルト一般ニシテ齊シ

ク事理人情ニ悖レルモノナリ

顯理王第二世ハ若シ婦人ニシテ預シメ妊娠ノ事由ヲ
宰官ニ告グスレテ出生ノ子女ヲ失フモノアレハ之ヲ
死刑ニ處セリ此法律モ復タ自護ノ天權ニ背反スルヲ
免レス但シ此弊ヲ防拒スルニハ其母タル者ニ命シテ
嬰兒保存ノ責務ヲ負ヘル近親一人ニ報知セシメテ足
レリトス

夫レ妊娠ノ事由ヲ明言スルハ婦人ニ在テハ最モ羞縮
苦痛スル所ナレハ近親ノ外何ソ之ヲ他人ニ告知スル
ヲ望ムヘケンヤ況ヤ教化日ニ開クレハ廉耻ヲ重ンス

ルノ風日ニ増スヲ以テ進退維谷ノ地ニ臨テハ一死ヲ
抛ツノ外更ニ他意ナキニ至ルニ於テヲヤ

英國ノ法律ニ七歳以上ノ女子ニ夫ヲ撰ムノ准許ヲ與
フルノ條款アルニ就テ物議頗ル囂然タリキ是レ此法
律ハ造化自然ノ運爲ニ成レル智識發達ノ時ト身體強
壯ノ時トヲ顧ミス遂ニ二層ノ巨害ヲ釀成スヘキ憂アリ

羅馬人ノ法制ハ人民結婚ノ初ニ方リ許諾ヲ與フモノ
ト雖モ父ハ其女ヲ要シテ夫ト離別セシムルヲ得タリ
此法律ハ夫婦ノ外ナル第三ノ人ニ解婚ノ權ヲ握ラシ

ムルカ故ニ天理人情ニ適ヤサルモノトス
夫レ天理人情ニ悖ラサル解婚ハ必ス夫婦二人ノ承諾
若クハ其中一人ノ情願ニ出ルニ外ナラス彼此ノ承諾
ヲ俟タサルモノハ解婚ニアラス全ク強暴ヲ以テ之ヲ
離散セシムルナリ之ヲ要スルニ解婚ノ權ハ獨リ之ヲ
躬ラ琴瑟失和ノ煩惱ヲ覺フル人ト及ヒ其身ノ利害ニ
於テ此煩惱ヲ解脱セサルヲ得サル地位ニ立ツ人ニノ
ミ付與スヘシ

第四回 全上

ブルゴンダー王ゴンデバルドノ法制ハ若シ盜賊ノ罪

ヲ犯スモノ、妻子ニシテ告發ヲ怠ルハ之ヲ罰シテ
奴隸トナセリ夫レ妻ニシテ夫ノ惡事ヲ許キ子ニシテ
父ノ罪蹟ヲ訴フハ之ヲ最モ性理ノ自然ニ背戾スト謂
ハスレテ何ソヤ此法律ノ如キハ一罪ヲ懲必セントシ
テ更ニ大惡ヲ作ラシムルモノナリ

レセスレユントユスノ法律ニ據レハ凡ソ姦夫姦婦ノ子
女ハ公然ト父母ノ罪ヲ告發シ或ハ家中ノ奴婢ヲ拷問
シテ實ヲ吐シムルノ特權ヲ有セリ此ノ如キハ人民ノ
道義ヲ維持セント欲レテ却テ道德ノ元素タル性理ノ
自然ヲ顛覆セリ固ヨリ法理ノ公平ヲ得ルモノニ非ス

ソエードラノ演劇ヲ觀テ誰カ感喜ノ情ヲ起サ、ラン
ヤ其岳母ノ惡行ヲ發見シテ悲痛ニ沉ムノ狀ハ恰モ我
躬ニ罪ヲ犯セルカ如ク而メ官吏ニ糾彈セラレ世人ニ
罵辱セラル、モ敢テ一言ノ岳母ノ瑕瑾ニ説キ及ホス
ナシ一身ノ肝腦ヲ犠牲ニシテ唯タ岳母ノ神譴ヲ免レ
ンヲ懇禱スルノ外他念アラス是レ乃チ天倫至情ノ
煥發スル所ニシテ人ヲ感喜セシムル所以ナリ

第五回

人法ノ主義ニ從ツテ性法ノ主義ヲ制
限スヘキ例格

雅典ノ法制ニ於テハ凡ソ子ハ必ス父ノ貧窮ニ陷ルヲ

扶持スヘキノ義務ヲ負ヘリ之ヲ怠ルモノハ道義上ニ
破廉耻ノ議アリ法律上ニ
禁獄ノ但シ娼妓ノ腹ニ生レシモノ及ヒ父ノ爲メニ貞
節ヲ破リタルモノ及ヒ父ニテ生計ノ道ヲ與ヘサルモ
ノハ更ニ此義務ナシ

此法律ハ蓋シ第一項ハ父ノ誰何タルヲ定メ難ク性法
上ノ義務ヲ竭クスニ由ナク第二項ハ父己ニ其ノ賦與
セル身體ヲ穢シ畢生ノ榮譽ニ大害ヲ加ヘ第三項ハ父
トシテ其子ノ生活ノ方便ヲ得サルヲ放擲シテ顧ミサ
ルニ由ルナルヘシソノ精神ヲ咀嚼スレハ父己ニ性法
上ノ義務ニ背キタルヲ以テ子女ノ義務モ自ラ消除ス

ト看做シ父子ノ倫理ハ恰モ甲乙國士間ノ交際ニ於ル
カ如ク全ク之ヲ民法政法ノ見點上ヨリ決定レ共和ノ
良政府ハ應サニ人民ノ風俗ニ注意スヘシトノ一點ニ
傾斜セリ予ハ謂ラク第一項第二項ノ如キハ子生レテ
父ヲ知ラス或ハ父自ラ女ヲシテ己ヲ認メサラシハル
ヲ以テソローロンノ法制ハ實ニ其理アリト雖モ第三項
ノ父カ民事上ノ義務ヲ怠ルニ由テ性理上ノ子道ヲ消
抹スルハ未タ首肯シ能ハサル所ナリ

第六回 承續ノ順序ハ當ニ政法民法ノ主義ニ

基クヘク性法ニ從フ可ラス

フオコニヤン律ハ獨子ナリト雖モ女子ニ基業ヲ承襲ス
ルヲ許サスセントオーグスチンハ之ヲ不公平ノ極
ナリト批評シマルクルフスノ法書ニハ女子ヨリ父蔭
紹襲ノ權理ヲ褫奪スルハ乃チ神慮ニ背キタル制度ナ
リト論駁シジュスチニヤン帝ハ從來男子カ女子ヲ排
ケテ遺産ヲ相續スヘキ權理アルヲ指シテ野蠻ノ風習
ト謂ヘリ以上ノ諸說皆ナ其ノ見點ヲ悞リテ要領ヲ得
サルハ蓋シ父蔭承襲ノ權理ヲ視テ性法ニ淵源セルモ
ノト為スニ在リ

性法ハ帝ニ父ヲシテ子女養育ノ準備ヲ為サシムルノ

ミニテ更ニ之ニ相續ノ權ヲ付與スヘキ義務ヲ命スル
 一無シ資産分配ノ法則及ヒ此分配ニ關スルモノ、死
 後ノ相續人ノ如キニ至テハ全ク社會人民ニ關係スル
 モノナレハ宜ク政法民法ヲ以テ之ヲ制定スヘキナリ
 但シ政術民情ノ己ム可ラサル依リ子女ヲシテ專ラ父
 蔭ヲ承襲セシムルヲ免レスト雖モ決シテ之ヲ以テ
 一定不易ノ天法トス可ラサルナリ

我カ籍土ノ法制ニ於テハ嫡子嫡孫若クハ男系ノ近親
 ニ限リテ父祖ノ遺業ヲ承襲シテ女子ニハ一モ之ヲ付
 與セスロムバルド人ノ法制ハ然ラス遺業ヲ女子ニ相

續セシムルノミナラス其姊妹私子自餘ノ親族若シ此
 數者相缺クレハ政府ノ度支ニ至ルマテ皆ナ多少ノ得
 分ヲ受用セシムス如クニ制全ク相反スト雖モ能ク
 立法ノ源ニ溯リテ之ヲ尋ヌルハ必ス然ラサルヲ得
 サルノ理由アルヲ看出スナルヘシ

支那ニテハ天子崩殂ノ後皇子ヲ措キ皇弟ヲシテ帝位
 ヲ嗣カシメタル慣例アリ蓋シ國君ハ政事ニ鍊達セル
 人ヲ希望シ且ツ閹官婦豎作奸ノ餘地ヲ與フヲ防制
 セシカ為メニハ廢幼立長ノ法制ヲ設定スルモ決シテ
 不當ノ政圖ト謂フ可ラス然ルニ我カ歐土ノ人之ヲ僭

位者トシテ立論スルモノアルハ唯タ自國ノ法律ニ心
醉シテ速了ノ見ヲ下シ曾テ他國ノ情勢如何ヲ顧ミサ
ルニ因ルノミ

往昔ヌミダヤ王ガラノ死去ニ方テヤ胞弟デサルセス
ハ其國ノ風俗ニ從テ王子マシニサーヲ措キテ君位ヲ
承繼セシニ非スヤ降テ今日ニ至レト亞刺比野蕃部ノ
如キ各村酋長ヲ置ク所ノ部落ニ在テハ依然舊例ヲ遵
奉シ若シ酋長死スルハ幼子ヲ捨テ伯叔父或ハ親戚
ノ年長ヲ推撰スルナリ

又立君王國ニシテ世襲ノ制ヲ用キスシテ時々撰擧ヲ

行フ所アリ蓋シ君位相承ノ順次ハ須ラク精神ヲ政法
民法ニ資取スヘキナレハ或ハ昭穆相續ノ制ヲ用キテ
理由ニ適スルカ或ハ之ニ依ラサルヲ有利ナリトスル
カハ皆ナ歸決ヲ此二法ニ仰カサル可ラス

一夫數婦ノ邦土ニ於テハ天潢ノ枝葉繁茂ニ過キテ國
計民力ノ得テ之ヲ扶持給養シ能ハサルニ至ル故ニ斯
ル國民ハ君位ヲ王子ニ讓ルヲナク姉妹ノ子ヲ國儲ト
定ハヘキ法律ヲ制定スルモ更ニ不可ナカラシ

天潢ノ枝葉甚タ繁茂スルハ一國內亂ノ基ニシテ其大
害タル實ニ人ヲシテ悚然タラシム其姉妹ノ子ニ君位

ヲ承襲セシムルノ法制ト為ス片ハ人數甚々多カラス
粗一夫一婦ノ國ノ王子ト相等シキヲ以テ大ニ國亂ヲ
未發ニ防遏スルニ足ルヘシ

或ハ國是ノ歸向ニ依リ或ハ教義ノ勸誘ニ依リテ王冠
ヲ戴ク人ヲ一族ノ中ニ限定セラルヲ得サル國民アリ
是レ印度ノ諸部落常ニ相嫉ミ相惡ミ唯タ繼續ノ權ヲ
失シテヲ恐レテ戰亂熾ム時ナキ所以ナリ該國ノ如キ
ハ決レテ王室ノ血脉斷絶ノ患ナキヲ以テ長女ノ子ニ
君位ヲ嗣シムルヲ得策ナリトス

約シテ此一回ノ大綱ヲ言ヘハ子女ノ養育ヲ負荷スル

ハ性法上ノ義務ニ屬スト雖モ遺業相續ノ人ヲ撰ムハ
民法政法上ノ義務ニ外ナラサルヲ以テ私子待遇取扱
等ノ諸規則ニ至テハ風俗氣候ニ不同アルニ應シテ各
國當サニ其趣ヲ殊ニス可シ

第七回 教義ヲ以テ性法ニ屬スルヲ裁判ス
可ラス

アバシネス人ニハ五十日ノ長齋アリ齋中ノ戒律極メ
テ嚴峻ニシテ身心甚々疲勞スルヲ以テ齋後數十日ヲ
經サレハ精神舊ニ復シテ營業勤務スルヲ能ハス故ニ
突厥ハ常ニ此時ニ乘シテ入寇シテ勝利ヲ得ルト云フ

サレハ教義ノ方便ニ依リテ人生自衛ノ天權ヲ扶助セ
シカ爲メニ此長齋ノ風俗ニ制限ヲ加ハサル可ラス
猶太人ハ我カ基督教ニ等シク七日ニシテ一日ノ安息
ヲ得ルニ過キス然レモ此國民ハ安息日ニ際シテ敵人
ノ襲撃ニ逢フアリト雖モ敢テ抵抗セズ其爲ス所ニ
任セ以テ自衛ノ天權ヲ暴棄スルハ憫笑スヘキノ惡風
ナリ

波斯王カムビゼスハペルシム城ヲ攻圍スルニ方リ
埃及人カ常ニ神トシテ敬フ所ノ獸類ヲ陣頭ニ排列シ
タレハ戍兵之ヲ視テ恐怖シ一人ノ敢テ敵對スルモノ

無シ愚モ亦タ甚シト謂フヘシ夫レ自衛ヲ謀ルハ人生
第一ノ義務ナレハ決シテ教義ヲ以テ之ヲ壓服ス可ラ
サルナリ

第八回 民法ノ主義ヲ以テ整理スヘキ事ヲ教

會律ノ主義ヲ以テ整理ス可ラス

神廟ノ物ヲ竊ムモノハ羅馬ノ民法ニテハ之ヲ盜罪ニ
處スルニ止マレモ教會律ニ於テハ之ニ神聖ヲ汚スノ
罰典ヲ加ヘタリ蓋シ教會律ハ專ラ靈地ノ犯ス可ラサ
ルニ著目シ民法ハ唯タ其ノ事實ヲ認ムルニ因テ彼此
ノ異同ヲ致ス所以ナリ然レモ該靈場ニ參詣スルノミ

ハ固ヨリ竊盜ノ名目ヲ犯スニアラス又神聖ヲ汚スノ
罪惡ヲ行フニアラス

夫ハ其妻貞操ヲ破ルノ事實アレハ以テ解誓ヲ要求シ
得ヘク又妻モ往時ハ其夫ノ失行アルニ因テ解誓ヲ要
求スルヲ得タリ此慣習ハ全ク羅馬人制定ノ法典ニ
背反スル所ニレテ之ヲ唯タ敎門ノ法訣ノミヲ墨守ス
ル敎會ノ法院ニ遵用スル所ニ係レリ今日佛國ニ於テ
ハ己ニ之ヲ承認
ス若シ夫レ男女ノ婚姻ヲ神事ナリト看做ス片ハ此事
ノ如キハ固ト現世ノ民事ニ關涉スルニ過キサレハ夫
妻ノ失行ハ彼此相等シクシテ其間ニ輕重ヲ存スヘキ

ニ非サレモ宇内列國ノ政法民法上ニ於テ萬々然ルヲ
得サルノ理由アリテ其ノ婦女ニ望ム所ノ謹慎貞節ハ
男子ニ望ム所ノモノヨリモ一層大切ナルモノナリ是
レ婦女ノ一タヒ貞節ノ道ヲ違犯スルヲ以テ一切諸德
ノ敗壞ト認ムルニ由レリ蓋シ婦女ニシテ婚姻ノ法律
ヲ破ル時ハ天賦ノ義務ナル順從ノ婦道ヲ亂スニ由リ
造化自然ノ大法アリテ若シ婦女其操ヲ失ヘハ忍テ掩
フ可ラサル憑證ヲ存シテ私子ヲ懷胎シ產下ノ後ハ夫
ノ損害タルヲ免レス之ニ反シテ男子ノ失行ニ依テ出
生アルモ更ニ其妻ニ損害ヲ與フヲナキナリ

第九回 民法ノ主義ヲ以テ整理スヘキ事ヲ教

義ヲ以テ整理ス可ラス

教法ハ其理微妙高尚ナリ民法ハ固ヨリ宗教ノ如ク微妙高尚ナル能ハサレモソノ布達スル區域ハ極メテ廣大ナリ

教法ニ於テ十全ノ善行ヲ要スル所以ハ之ヲ勤行スル人ノ福祉ニ汲々トシテ社會一般ノ福祉ヲ謀ルヲ却テ鮮ナシ民法ハ之ニ反シテ社會一般ノ徳義ヲ増進スルヲ眼目トシテ敢テ一人ノ爲メニ深切ナラス故ニ直チニ教義ニ淵源スルモノハ其ノ精神ハ極メテ

敬重スヘシト雖モ常ニ之ニ資リテ以テ民法ノ要領ト爲ス可ラス蓋シ民法ハ全社會ノ福祉ヲ以テ第一ノ主義トスレハナリ

羅馬人カ婦女ノ躬行志操ヲ維持スヘキ規則ヲ協議設立セシハ教義道德上ヨリ發スル所ニ非ス全ク政治上ノ法制ニシテ其ノ立君政ヲ建ルニ迫テモ此精神ヲ以テ民法ノ主義ト定メテ治術政圖ヲ施行シタリソノ基督教ノ勢焰漸ク盛ナルニ至テ制定スル所ノ新法ハ之ニ反シテ社會ノ道德ヲ維持スルノ趣意漸ク薄ラキ婚姻ヲ神事視スルノ心情漸ク厚キヲ加ヘ遂ニ男女ノ配

偶ヲ以テ民事ノ範圍外ニ置クニ至レリ。

羅馬ノ舊律ニ據レハ若シ妻ノ姦罪發覺セルノ後其夫之ヲ我家ニ伴ヒ歸ルヲアレハ夫モ亦姦罪ノ從犯ヲ以テ論セラレタリデユスタニヤン帝ニ至テ他ノ主義ニ則リテ未タ二年ヲ經過セサル間ハ旣ニ居院ニ遁ル、姦妻ヲ召還スヘキ權ヲ其夫ニ付與シタリ

當初ノ法制ハ遠征邊戍ニ從役セルモノ、妻ハ躬ヲ解誓ヲ求ムルノ權アルヲ以テ若シ一別以來絶テ音信アラサルキハ他家ニ再嫁スルモ敢テ妨ケ無シ孔士且丁帝ノ法制ニ據レハ妻ハ須ラク四年ノ間夫ノ消息ヲ俟

タサル可ラス之ヲ經過シテ尚ホ存亡相分ラサルニ於テハ解誓證書ヲ其ノ將帥ニ送致スヘシ此定規ヲ履行シタル以上ハ假令夫歸リ来ルト雖モ犯姦律ヲ以テ其妻ヲ告訴スルヲ得スデユスタニヤン帝ニ至テ夫從軍等ノ為メ妻ニ別ル、ヲ數十年ノ久シキヲ經ルト雖モ若シ其ノ將帥ノ誓書ニ依リテ死亡ノ證蹟ヲ明言スルニ非サルヨリハ妻タルモノ再誓スルヲ得ス蓋シデユスタニヤン帝ハ婚姻不可解ノ教義ヲ固執スルヨリ此法制ヲ設立セシヲ疑ナシト雖モ亦一極ニ偏倚シテ人情ニ通セサルノ譏ヲ免レ難シ何トナレハ海外絶域ニ于

後シテ旦夕一命ヲ鋒鏑ニ委スルモノ、存亡ヲ確知スルハ極メテ難キ事ナレハ之ヲ現世ノ人ト認メサルモ敢テ深ク咎ムルニ足ラス然ルヲ夫ヲ棄ルノ罪ヲ以テ其妻ニ加フルハ難キヲ責ムルニ非スレテ何ソヤ帝ノ法制ハ大ニシテハ空閨ノ怨女ヲ殖シテ人口繁昌ノ路ヲ塞キ小ニシテハ所天ヲ失フテ一身ノ衣食ニ困窮セシムト謂テ可ナリ

ギユスタニヤン帝ノ法制中ニ復タ夫妻約諾ノ上ニ出家シテ尼院ニ入ルヲ以テ解婚ノ原由ト為セシハ全ク民法ノ主義ヲ破ルト謂ハサルヲ得ス抑モ解婚ノ原由ハ

必ス結婚前ニ預見ス可ラサルノ障礙ニ限リテ然ルモノナルハ自然ノ理ナリ而シテ畢生童身ヲ保守スル志願^{尼院ニ}入ル^トノ如キハ固ヨリ一身ノ決斷ニ在リテ外物ノ更ニ之ヲ妨クルニ非ス又之ヲ未然ニ知ルヘキヲ以テ此一款ヲ掲ケテ解婚ノ原由ニ列スルハ婦女ヲシテ其徳ヲ二三ニセサルノ志操ヲ破ラシメ且帝ニ一人ノ情願ノミニ因テ婚姻ヲ解キ敢テ雙方ノ約諾ニ出サルヲ以テ大ニ解婚ノ主義ニ背戾セリ之ヲ祭祀ニ喻ヘテ言ヘハ此法制ハ猶ホ犧牲ヲ屠宰セシテ上帝ニ供獻スルカ如シ

第十回 民法ノ許ス所ニ從フテ教義ノ禁スル所ニ從ハサルノ分界如何

若シ一夫數婦ノ制ヲ禁斷スル宗教ヲ採リ來リテ之ヲ禁制セサル邦土ニ流行セシムル時ニハ預シノ宰官若クハ夫主ヨリ其婦女ニ相當ノ償補ヲ與ヘテ一分ノ生計ヲ立ルノ道ヲ謀ルニ非サレハ其ノ數婦ヲ娶レル男子ヲシテ驪カニ改宗セシム可ラス此制規ヲ設ケサレハ人民其ノ法律ニ從フヤ否ヤ忽チ社會ノ福利ヲ損害シテ名狀ス可ラサル困難ニ陷ルヘシ

第十一回 現世ノ法院ハ決シテ來世ノ禍福ニ

關涉スル法訣ヲ用ウ可ラサル事

宗教監察院ハ悔罪改心ノ道場タルノ精神ニ基キテ基督教僧侶ノ設立スル所ニシテ大ニ治民ノ良圖ニ相反スルヨリ人民ノ嫌惡ヲ招キ到ル處トシテ抗逆ノ色ヲ現サ、ルハ无レ而シテ其ノ速カニ廢滅ニ就カサル所以ハ全ク之ヲ設立スル輩カ人民ノ之ニ抗逆スルニ乘シテ利益ヲ占取スルノ方便ト爲スニ由テナリ一タヒ宗教監察院ノ設立アレハ立君政ニ在テハ人ノ心事ヲ摘發シ隱微ヲ訐告スルカ如キ不良ノ徒輩出シ共和政ニ在テハ不正不直ノ國民ヲ養成シ專制政ニ在

テハ即チ該政體ノ素性ト齊シク國家覆滅ノ原因ヲ爲
スノミナレハ何等ノ政體ニモ之ヲ容受スルコト能ハサ
ルナリ

第十二回 同上

茲ニ甲乙二人アリテ同一ノ罪ヲ犯スヲ以テ糾劾セラ
ル、ニ甲ハ其罪ヲ認メサルカ爲メニ死刑ニ處セラレ
乙ハ之ヲ認メテ罪ニ服スルニ因テ罰典ヲ免カル、均シ
ク同一ノ罪犯ニシテ一ハ罰セラレ一ハ免カル其相異
ナル所乃チ宗教監察院ノ大弊ナリ蓋シ教義上ニ於テ
罪ヲ認メサルモノハ懺悔ノ心ナキノ故ヲ以テ警戒ヲ

加ヘサル可ラス之ヲ認ハルモノハ解脱セサル可ラサ
ル精神ニ出ルモノナリ然レ凡人ノ心事ニ干涉シテ輕
重ヲ區別スルカ如キハ決シテ人間法院ノ得テ掌トル
ハキニアラス人事ノ裁判ハ帝ニ行業ヲ判斷スルノミ
ナレハ宜シク罪ノ有無ヲ審糺スルニ止マリ其ノ罪ノ
有無ト懺悔ノ眞否ヲ併セ問フハ應サニ之ヲ心事ニ干
渉スル教義上ノ裁判ニ付スヘキナリ

第十三回 婚姻ニ就テ教義ニ從フヘキト民法
ニ從フヘキトノ分界

時ニ古今ナク國ニ文野ナク宗教アル以上ハ多少婚姻

ノ事ニ干涉セサルハ莫シ蓋シ人一定ノ事アルニ遇フ
テ若シ其心ニ不安ヲ懷キ或ハ正理ニ違フト思惟スレ
ル而モ其事必須ニシテ中止ス可ラサル片ハ必ス宗教
ノ庇蔭ニ依頼シテ以テ其事ノ理ニ合スルヲ承認セ
シメ或ハ之ヲ拒否セシムルノ外ハアラス
又一方ヨリ之ヲ觀レハ婚姻ハ人事中ニテ最モ大切ニ
シテ其ノ社會ノ利害ニ影響スルヲ鮮少ナラサレハ民
法ヲ制定シテ以テ之ヲ整理セサル可ラス
凡ソ婚姻ノ性質、禮式、結約ノ方法及ヒ之ニ由テ結ヒ成
スヘキ福果此果實即チ子女ノ生育ハ各人固有ノモノ
ニアラス間々或ハ之ヲ結成セサルモノア

リ故ニ古今萬國之等ニ關係スル事物ハ一トシテ宗教
ニ神福ノ名ヲ下ス
ノ範圍内ニ在ル天祐神惠ニ依ラサルハ无シ
男女配偶ノ應效、財産ノ管理法、夫妻互相ノ利益等凡ソ
新造ノ室家夫及ヒ其ノ淵源母父其ノ末流子ニ關係スル
所ノ事物ハ一トシテ民法ニ依ラサルハ无シ
婚姻ノ一大目的ハ野合ノ醜跡ヲ踐マス私通ノ曖昧ニ
成ラサルヲ顯揚スルニ在レハ教義ニテソノ管鑰ヲ
嚴守シ民法アリ之ニ次テ益、其事ノ公明ナランヲ欲
スルカ故ニ婚姻ヲ結フニ方テハ教義上ヨリ要求スル
資格ノ外、民法ニ於テ亦ク其正否ヲ判決セサル可ラ

ス
斯ク婚姻ノ事ニ就テ民法ニ多少ノ権力アルハ即チ之
ニ由テ要ニ一層ノ義務ヲ附加スルノ故ニシテ敢テ教
義ニ反對スル主義ニ出ルニ非ス喻ヘテ之ヲ言フニ教
義ニ於テハ必ス一定ノ禮式ヲ踐行セシメ民法ニ於テ
ハ必ス父ノ承諾ヲ要求スル等ノ如ク都テ民法ハ教義
ノ及ハサル所ヲ補足スルモノニシテ之ニ反對スルモ
ノニ非サルナリ
然ルヲ以テ教義ハ宜シク唯タ赤繩一結終ニ解ク可ラ
サルヤ否ヤヲ判斷スルノミニ止マリテ之ヲ實施スル

ノ權ヲ掌握セサルヲ要ス若シ教義ニ於テ離解ス可ラ
スト認定シテ遵行セシムルヲ民法ニテ離解スルヲア
レハ忽チ教義民法ノ矛盾ヲ致スヲ免レサルヘシ
民法ノ規則ト雖モ時トシテハ己ム可ラサルノ要務ノ
ミニ限ラサルヲアリ譬ヘハ法律ニ婚姻ヲ解止セス之
ニ代フルニ唯タ結約ノ人ヲ罰スルニ止ルノ規律アル
カ如キ是レナリ

羅馬人ババピアン律ノ明文ニ依リテ犯禁ノ婚姻ヲ不
法ノ行業ナリト認ムルモ之ヲ罰典ニ處スルニ過キサ
レ凡マルキユスアントニウス帝ノ發議ニ成レル元老院ノ

議定書ヲ發行スルニ至テハ婚姻ヲ解止スルコト爲リ
テ更ニ婚姻嫁資或ハ夫妻ノ權義等ヲ審理セス當時民
法ノ判決ヲ導キ來ル所ハ或ハ防弊ノ一點ニ偏シ或ハ
之ヲ醫療スルノ一點ニ傾キテ唯タ目下ノ情勢ニ相應
スルニ過キサリキ

第十四回 性法及ヒ民法ニ於テ親屬結誓ノ規

則ヲ制定シ且之ヲ許否スルノ場合
ヲ論ス

親屬結誓ノ禁制上ニ於テ性法ノ既ニ止ム所ト民法ノ
始メテ作用ヲ現ス所ノ定點ヲ確然ト分割スルハ極メ

テ精微ノ論題ニシテ苟クモ毫釐ヲ悞レハ千里ノ差ヲ
生スヘキニ依リ茲ニ發論ニ先テ一定ノ主義ヲ立ル
ヲ必要ナリトス

母子相誓スルハ孝敬ヲ竭スヘキ子ニシテ夫權ヲ秉
リ母儀ヲ示スヘキ母ニシテ婦道ヲ脩メ冠履倒置シテ
倫理綱常地ニ墜ルト謂サルヲ得ス是レ民法上ニ於テ
嚴禁スヘキ所ナリ之ニ加フルニ造化ノ玄意婦女ノ爲
メニ生育ノ期ヲ急促シテ男子ノ爲メニハ故ラニ之ヲ
遲緩ナラシメ其ノ良能ノ氣力ヲ失フモ女ハ早クシテ
男ハ晚キヲ以テ若シ母子相誓ヲ爲スニ至レハ夫タル

ヘキ子カ生育ノ良能ヲ稟ケ得ル頃ハ其ノ妻タルヘキ
母ハ既ニ胎素枯凋ノ秋ナルヘシ是レ性法上ニ於テ許
サル所ナリ

父女ノ婚姻モ亦タ民法ノ倫理ヲ顛倒スルハ母子ノ間
ニ於ルニ異ナラスト雖モ性法上於テノ妨碍ハ更ニ省
出サ、ルヲ以テ其害ハ母子ノ婚姻ニ比スレハ一層淺
薄ナリトス故ニ韃靼人ハ父女相婚スルノ風俗アレ
曾テ母子ノ間ニ之アルナシ該國民ハ古來此法律ニ從フモノニシテ古史ニ
亞帝疎カ使節ニ赴ク途中ニ駐劄シテ其
女エスカヲ娶ルヲ記載スルヲ見タリ
然レトモ女子ノ貞節ヲ看護スルハ父タルモノ天賦ノ

義務ニ屬シテ古今ニ亘リテ更マルナシ夫レ父ト爲
リテ子女教育ノ責任ヲ荷フ以上ハ亦タ其身體ヲ保護
シテ完全ナラシメ其ノ志操ヲ淬勵シテ一點ノ汚斑ヲ
付セス之ヲ誘掖シテ德行ノ美ヲ希望セシメ以テ幽婉
貞淑ノ儀範ヲ培栽セサル可ラス父タル者ハ其躬既ニ
子女ノ德義ヲ保全スル地位ニ立テハ朝夕相對スルモ
禮ヲ守リ敬ヲ盡シテ苟クモ狎褻ニ涉ルヲ無キヤ必然
ナリ抑モ男女ノ婚姻ハ人ノ大事ナレハ固ヨリ之ニ狎
褻ノ名ヲ下スハ不當ヲ覺フト雖モ然レモ自他相愛ス
ルヨリ合卺ノ歡ヲ結フ迄ニハ必ス互ニ相挑ミ相語ラ

サル可ラス若シ父女天倫ノ間ニ此事アラシメハ名教地ヲ掃フニアラスシテ何ソヤ

是故ニ其原意ノ性法ニ合スルト否ストヲ論セス骨肉ノ天倫ヲシテ淫猥ニ流レシムルヲ防クカ爲メニハ教ヲ施ス者父ト教ヲ受ル者女トノ間ニ須ラク一ノ關闡ヲ設ケテ互ニ踰越セシメサルヲ要ス

全胞ノ兄弟姉妹相通スルヲ看テ亂倫ノ穢行ナリト指斥スルモ全ク父母子女ニ於ルト同一ノ理由ニ淵源スル所ニシテ父母タルモノハ齊シク其ノ子女及ヒ一家族ノ德操ヲ看護シテ瑕瑾ナキヲ欲スルノ希望アルヲ

以テ其ノ精神自ラ家内子弟ノ品行ニ映響シテ以テ禮相持男女有別ノ果實ヲ結フニ足ルモノアリ

表從兄弟姉妹ノ婚姻ヲ許サ、ルモ其理亦タ前ニ同シ上古草昧ノ世ニ在テハ子女結婚ノ後モ依然父母ノ膝下ニ止マリテ未タ析居分爨ノ風俗行ハレス皆ナ一家内ニ團圓全居スルヲ以テ家族多數ニシテ兄弟ノ子女即チ表從兄弟姉妹モ自他互ニ同胞ノ思ヲ爲シテ相交リ竟ニ兄弟姉妹ノ間ニ行レタル禁制ヲ推シテ表從兄弟姉妹ニ及ホスト爲レリ

此主義ハ甚々物理人情ノ自然ニ切當スルヲ以テ人ノ

之ヲ傳達スルヲ俟タスシテ知ラス識ラス天下普通ノ
人倫トハ爲レリ譬ヘハ彼ノ臺灣ノ島民カ四等親ノ昏
姻ヲ亂倫ノ姦罪ト認ムルカ如キハ決シテ法理ヲ羅馬
人ニ學ヒシニ非ス其他亞刺伯人マルチフキヤ島人ノ如
キ皆ナ親屬相婚ノ禁令ヲ設クルモ決シテ羅馬人ノ制
度ヲ倣フニ非サルナリ

然ルニ尚ホ父母兄弟姊妹ノ間ニ禁婚ノ制度ヲ設ケサ
ル國民アルヲ觀レハ乃チ開卷ノ第一ニ論セシカ如ク
苟モ靈覺アル生物(人)ハ運爲ノ自由ヲ好ム心意ヲ具フ
ニ依リテ徹頭徹尾性法ノ約束ヲ恪守シテ相違フヲ無

キ能ハサルニ因由スルモノニシテ其ノ之ヲ舉行シテ
恬然怪シマサルニ至ル所以ハ蓋シ教義ニ迷惑セラレ
テ非禮ニ陷ルモノ其ノ多キニ居ルトス即チ亞述波斯
ノ二國齊シク其母ヲ娶ルノ風俗アルハ一ハ瑟美刺米
斯后カ曾テ信仰シタル教規ノ作用ニ感化セラレ、一ハ
ゾーロストルノ教義ニ於テ之ヲ榮譽ト認ムルニ淵源
シ埃及人カ姊妹ト婚姻スルハソノ國教ニテ之ヲ神意
ニ適スト定メタル陋規ニ根基スルカ如キ是レナリ夫
レ信教ノ精神ハ人ヲシテ爲シ難キ行ヲ爲サシメ、堪ヘ
難キ事ニ堪ヘシメ、其理否ノ如何ヲ問フニ違アラサレ

ハ偽教ニテ許容スル所ノ事々物々ヲ以テ皆ナ性法ニ
適當セリト断定スルニ足ラサルナリ

一 家族ノ天倫ヲ保チ貞節ヲ全クセンカ爲メニ人ノ心
意ニ父母兄弟姉妹ノ婚姻ヲ禁止スヘキ情感ヲ喚起セ
シムル所ノ主義即チ依テ以テ禁婚ノ淵源ヲ性法ニ資
ルヘキカ或ハ單ニ民法ニ由ルヘキカラ發明スルノ一
端タルヘシ

子女ハ固ト父母ノ家ニ住居スト看做スヨリ推シテ婿
ハ姑母ト同居シ媳婦ハ舅父ト同居スルト想像スルニ
到リ遂ニ性法上ニ舅姑婿媳ノ間ニ禁婚ノ主義ヲ生セ

リ是レ舅姑ハ稍父母ニ類似スルアルヲ以テ直チニ父
母ニ於ルト同一ノ主義ニ隨フヘケレハ民法ニ於テ之
ヲ許容ス可ラス

平生同居スルノ故ヲ以テ從兄弟ヲ胞兄弟ト認ムルノ
國民アリ或ハ曾テ此風俗ナキ所アルハ既ニ論スルカ
如シ故ニ之ヲ胞兄弟ト認ムル所ニ於テハ從兄弟ノ婚
姻ヲ以テ性法ニ背馳スルモノト爲シ此風俗ナキ所ニ
於テハ否ラサルヘシ

然レ性法ハ風土ニ從テ變更スルモノニ非サレハ若
シ前文ノ如キ婚姻ヲ許否スルニ到ルアラハ乃チ現下

ノ事情ヲ酌量シテ民法ノ主義上ヨリ之ヲ許否スヘシ
 兄嫂弟姪ハ時トシテ一家内ニ同居スルヲアルモ必竟
 己ム可ラサルノ風俗ニ出ルニ非サルヲ以テソノ婚姻
 ヲ禁止セサルモ敢テ彝倫ヲ亂リ廉節ヲ破ルノ憂ナシ
 故ニ此等ノ婚姻ヲ許否スル法律ハ全ク各國ノ人情風
 俗ニ相應シテ制定セル民法ノ主義ニ出ルモノニシテ
 決シテ性法ニ淵源スルニ非サルナリ
 國風民俗ノ己ムヲ得サルヨリ民法ノ作用ニ依テ以テ
 禁婚ノ制ヲ設クルヲ猶ホ性法ノ主義ニ於ルカ如キ事
 情アラハ民法ヲ以テ之ヲ禁止スルモ敢テ妨ケ無シト

雖モ若シ此事情アラサルヨリ之ヲ許容セサルヲ得
 ス蓋シ性法ニ關係スル父母子女ノ必ス一家共住セサ
 ルヲ得サルカ如キハ一定不易ノ事情ニ屬スルヲ以テ性
 法ノ主義上ノ禁止ハ更改ス可ラスト雖モ夫ノ民法ノ
 禁止スル從兄弟姪妹ノ如キハ唯々偶然一時ノ同居ニ
 由ルモノナレハ之カ許否ハ全ク其時ノ事情如何ノミ
 ヲ顧ミルヘシ
 猶太埃及等ノ法律ハ娣姪伯叔ノ婚姻ヲ准許スレモ自
 餘ノ諸國ニ於テ否ラサルハ蓋シ前文ノ理趣ヲ實際ニ
 解明スル所ナリ

印度諸部ニ於テハ自然己ム可ラサルノ事情ニ由テ如斯婚姻ヲ准許スヘキ理趣アリ抑モ印度人ハ性情温良ニシテ慈愛ノ心殊ニ厚キヲ以テ其風俗子女ノ從父ヲ認マルコ全ク實父ニ於ルカ如ク從父ノ甥姪ヲ省ルヤ亦タ親生ノ子女ニ異ナラスレテ養育ノ義務ヲ擔任ス此風俗一轉シテ夫婦ノ間ニ推及シ若シ妻死スレハ必ス其姊妹ヲ娶ル是レ其新婦ハ即チ從母ニシテ之ヲ甥姪ノ母儀トナシ以テ繼母ノ毒手ニ罹ラレメサル爲メニ出テ自然己ムヲ得サルノ事情ナリ

第十五回 政法ノ主義ヲ以テ民法ノ主義ニ屬

スルモノヲ管理ス可ラサル事

夫レ人其固有セル性法上ノ獨立權ヲ拋棄シタルハ政法ノ下ニ棲息センカ爲メナリ而シテ復タ性法上ノ財產共有權ヲ拋棄シタルハ民法ノ下ニ棲息センカ爲メナリ

人ハ政法アルニ因テ自由權ヲ享ケ民法アルニ因テ財產ヲ得タリ然ルカ故ニ全社會ノ治法ナル自由主義ヲ以テ夫ノ財產ニ關係セル法律ノ決定スヘキモノノ決定ス可ラス抑一人ノ私利ハ須ラク人民一般ノ公益ニ一步ヲ讓ラサル可ラストノ法訣ハ妄謬採ルニ足ラサ

ル詭論ナレハ社會党政治即チ臣民ノ自由權ノミヲ目途トスル場合ニ於テハ或ハ施行セラルヘキモ決シテ私人ノ財産ニ關係セル事情ニ影響ヲ與フヲ能ハス是レ人民一般ノ公益ハ固ト各私人カ一定不易ノ民法ニ依テ享ケ得ル所ノ財産ヲ所有スルヨリ成立スルモノナレハナリ

シセローノ論ニ曰ク夫レ社會ヲ設立スルノ目的ハ他ナレ唯タ各人ヲシテ克ク其ノ財産ヲ保有セシムルニ在ルノミ故ニアガラリヤンノ均田法ノ如キハ公義ノ道ニ背馳セリト

然リ故ニ格言ヲ下タシテ曰ク若シ夫レ議論一社會ノ公益ニ渉ルヨリ之ヲ口實トシテ終ニ政略治術ヲ用キ以テ私人ノ財産ヲ褫奪シ或ハ其ノ一部ヲ侵犯スルハ決シテ公衆ノ真利ニアラサレハ須ラク嚴ニ民法ノ約束ヲ奉シテ財産ノ守護神ト爲スヘシ

故ニ若シ公衆ニ於テ私人ノ財産ニ干涉セサルヲ得サル場合ニ至ラハ必ス政法ノ作用ニ依テ之ヲ處分スルヲ無ク民法ニ十分ノ勝利ヲ讓リテ管理セシムヘシ民法ハ猶ホ慈母ノ如ク各私人ヲ視テ一家ト做スモノナリ

若シ官衙公廨ヲ建築シ或ハ新道ヲ開通スル等土木ノ功ヲ起シ之カ爲メニ損害ヲ被ムルモノアラハ政府補償ノ責ニ任セサル可ラス此場合ニ於テ社會公衆ノ被害者ヲ遇スルハ猶ホ甲ノ私人カ乙ノ私人ニ相對スルカ如クナルヲ要ス蓋シ政府ハ公衆ニ代リテ一國士ニ要求シテ其基業ヲ賣却セシメ而シテ民法上ニ於テ枉テ所有物ヲ讓與スルヲ欲セサル國士ノ特准ヲ剝奪スルニ當レハナリ

羅馬帝國ヲ覆滅シタル諸國民ソノ掠奪ノ土地人民ヲ蹂躪セシ後自由ノ精神遂ニ其心志ヲ挽回シテ平等ノ

精神ヲ發生セシメタルニ依リ極メテ粗暴ナル法律ヲ節制シテ施行シ稍中庸ニ庶幾スルヲ得タリ讀者ボーマノイル氏第十二世紀ノ大著述ノ法學書ヲ閱セハ胸中ノ疑團自ラ釋然タルヘシ

當時該國民カ大道ヲ修繕シタル方法ハ恰モ今日之ヲ我國ニ於テ施行セシニ異ナラス氏ノ言ニ曰ク若シ國民ニテ大道ノ既ニ修繕ニ堪エタルヲ看出ス時ハ勉メテ舊道ノ近傍ニ新路ヲ開キ而シテ其土地ノ所有者ニ歸スル所ノ損害ハ之ヲ右新路ヨリ利益ヲ收ムル者ニ賦課シテ補償セシメタリ地頭領主ハ收稅官ヲ派出シテ百姓ヨリ通行稅ヲ收納シ

郷紳士ハ公伯ヨリ賦金ヲ課セラレ僧徒ハ教正
ヨリ課セラレタリ一マノイル第二十二篇 該國民
ハ當時民法ノ作用ニ依テ之ヲ決定シタレ氏今日我國
ニ於テハ政法ニ依テ決定セリ

第十六回 當ニ政法主義ヲ以テ決定スヘキモ
ノヲ民法主義ニ依テ決定ス可ラサ
ル事

苟クモ自由權ニ胚胎スル規則ト財産ヨリ所生ノ規則
トヲ混雜スルニ非スンハ此一回ノ論題ヲ了解スルニ
甚タ難カラサルヘレ

國家(即チ政府)ノ土地ハ之ヲ他人ニ讓與スルモ敢テ妨

ケ無キ歟或ハ否ラサル歟此問題起ルヲアラハ須ラク
政法ヲ以テ決定スヘレ決レテ民法ニ依ル可ラスト答
言センノミ何故ニ民法ニ依ル可ラサル乎抑モ土地ハ
國家ヲ維持スルニ萬々缺ク可ラサルヲ恰モ政府カ私
人ノ財産ヲ處分スル爲ノニ著々民法ニ準據セサルヲ
得サルト一般ナレハナリ

果シテ若シ國家其土地ヲ讓與スルヲアレハ必ス新タ
ナル基業ヲ他ニ求メサル可ラス然レモ斯ノ如キ挪移
ノ治略ハ適マ以テ國家顛覆ノ禍ヲ招クニ足ルノミ且
夫レ事物自然ノ勢ニテ臣民ハ國家ノ土地ニ變遷スル

毎ニ稅歛増加シ君主ノ收入ハ減削スルヲ免ヘス之ヲ要スルニ既ニ國家アレハ土地ナキ能ハス土地ハ必須缺ク可ラサレ民之ヲ讓與スルカ如キハ固ヨリ必須ニアラサルナリ

立君國ニ於テハ國家ノ安康ニ基キテ繼承襲續ノ順序ヲ立ツ然ラサレハ既ニ先ニ論セシカ如ク萬事隨意ニ裁決シ萬事定極ナキ專制國ニテ免ル可ラサルノ患害ヲ避ルニ由ナキナリ

繼承襲續ノ順序ヲ定ムルハ敢テ天子ノ位ヲ嗣クヘキ一家ノ爲ノニアラス專ラ之ヲ推戴スヘキ國民ノ福利

ヲ増進センカ爲メナリ故ニ私人ノ財産承襲ヲ調整スル規律ハ即チ私人各自ノ私利ヲ謀ル所ノ民法ニ屬シ國君ノ承襲ヲ定ムル所ノモノハ即チ國安ヲ目的トスル政法ニ屬スルナリ

由此觀之若シ政法ニテ確定シタル君位承襲ノ順序已ニ斷絶スルニ方テ他國ノ民法ヲ借り來リ其作用ニ賴テ之カ回復ヲ謀ルハ策略ノ至拙ナルモノナリ夫レ甲ノ社會ハ固トヨリ乙ノ社會ノ爲メニ法律章程ヲ規畫制定スルモノニ非サレハ何ソ獨リ羅馬人慣用ノ民法ニ限リテ之ヲ萬事ニ應用シテ害無シト斷言スルヲ得

シヤ羅馬人ト雖モ其ノ國王ニ對シタル舉動ニ於テハ
更ニ民法ニ遵フヲ無ク甚タ惡ムヘキ法訣ニ依リテ國
王ノ罪狀ヲ彈劾セシニ非スヤ然ラハ今日ニ在テ決シ
テ羅馬人ノ民法ヲ回復スヘキニ非サルナリ
又政法上ノ精神ヨリ一定ノ王家ヲシテ君位承襲ノ權
ヲ拋棄セシムルニ際シテ民法ノ作用ニ賴リテ之カ回
復ニ盡カスルハ至愚ノ策略ナリ復舊賠補ノ事タル固
ト法律ノ範圍中ヲ出テサレハ法律ニ伏從スル者ニ對
シテハ其效用ヲ得ヘシト雖モ法律ヲ使用スルカ爲メ
ニ成立シ之ヲ使用スルヲ以テ職務ト爲スモノニハ適

當セサルナリ

各私人ノ間ニ存スル瑣細ナル權利ヲ判決スヘキ法理
ヲ墨守シ之ヲ以テ一國乃至全地球上ノ權理ヲ判決セ
ント欲スルモノアラハ誰カ其狂愚ヲ笑ハサルモノア
ランヤ政法民法ノ畛域自ラ相異ナル茲ニ於テ視ルヘ
シ

第十七回 前回ノ續キ

介殼彈劾法 希臘ニテ官吏タルモノ、行為國ニ害アリ
ト思フハ國士各其人名ヲ介殼ニ記シテ
彈劾シ之ヲ國ハ政法ノ見點ヨリ之ヲ考究スヘク民法
外ニ追放スノ見點ヲ以テス可ラス此風俗ハ希臘ノ民主政ニ暴虐

ノ名ヲ負ハシメサル而已ナラス却テ其ノ寛仁大度ヲ
明示スルニ足ル所アリテ之ノ慣用セリナリ故ニ讀者
若シ能ク今日ニ行ハル、所謂追放ヲ罰典ト認ムル眼
ヲ以テ古ノ介殼彈劾法ト尋常ノ追放トヲ區別シテ特
別ノ見點ヲ下サハ自ラ感得スル所アルヘシ
アリストートル曰ク此風俗ハ克ク當時ノ人情ニ適シ
テ殘酷ナラス大ニ人望ヲ得シハ今日皆ナ人ノ許ス
所トリ且之ヲ舉行セシ時世ト其ノ土地ニ於テ更ニ人
民ノ之ヲ忌嫌シタル證跡ヲ看出サ、ル以上ハ數百年
ノ後ニ生レタル我輩ハ唯タ思想ヲ彈劾ノ原被兩造及

ヒ之ヲ裁判シタル法官ノ地位ニ置テ考究スルノ外ア
ラサルナリ

若シ夫レ人民ノ公判ニ出タル此ノ介殼彈劾法ヲシテ
却テ之ヲ受得タル人ニ榮譽ヲ與フノ方悞タラシメ而
シテ國家ニ功德ナキ人ニ之ヲ施スニ及テ其風俗自然
ニ廢停ニ就キタルト考察スルハ則チ多分ノ人民
カ此ノ彈劾法ニ就テ謬見ヲ懷クヲ免レサルトチ者破
スヘシ何トナレハ國士タル者カ其ノ既ニ得タル榮譽
ノ勢威ニ依テ新タニ又榮譽ヲ重ヌルノ弊害ヲ防制ス
ルハ唯タ此ノ贊美スヘキ彈劾法アルニ賴レハナリ

第十八回

皮相ニテ矛盾スル所ノ法律モ或ハ
同一種類ニ屬スルナキヤヲ檢校セ
サル可ラサル事

羅馬ノ法律ニテ夫ニ其妻ヲ他人ニ貸與スルヲ許容
セシハプルタルキノ著述ニ明言スル所ニシテ統領
カトーハ其妻ヲホルテニシユスニ貸與セリカトーノ如
キハ決シテ國法ヲ破ル人物ニアラス
之ニ反シテ若シ夫タルモノ其妻ヲ容縱シテ淫行アラ
シメ或ハ之ヲ知リテ法廳ニ出訴セス或ハ之ヲ糾彈シ
タル後再娶スルヲアレハ乃チ刑罰ニ罹ルヲ免レス此

二法ハ彼此互ニ矛盾スルカ如クナレ氏其實相ニ於テ
ハ然ラス抑モ羅馬人ニ其妻ヲ他人ニ貸與スルヲ許
容スル法律ハ全クラセドモニヤノ遺制ニシテ之ニ由
テ共和政中ニ良種ノ子女ヲ蕃息セシムルノ趣意ニシ
テ淵源ヲ政略ニ資ル而シテ之ニ相反スル自餘ノ法律ハ
人民ノ道義ヲ維持スル爲メニ設立スル所ニシテ全ク
民法ニ胚胎セリ

第十九回

民法ヲ以テ家法ノ當サニ裁決スヘ
キモノヲ裁決ス可ラサル事

西我土人ノ法律ハ家奴タル者ノ職分トシテ男女ヲ奸

所ニ襲フテ捕縛シ之ヲ其夫及ヒ法官ニ送致セサル可
ラス此法律ハ下賤ノ人ニ公私權ノ看護ヲ委托スルモ
ノニレテ其害甚々恐ルヘキナリ

東洋諸邦ニ於テハ家奴ニ閨門ノ守護ヲ命レテ婦人ノ
失操不貞ヲ探偵スルノ斥候ト爲スカ故ニ西戎土人ノ
法律ノ如キハ東洋諸邦ヲ除キテ他ニ之ヲ施用レテ適
當スル所ナカルヘシ然リ而ノ東洋ノ家奴カ罪人ヲ閨
中ニ捕獲スルノ目的ハ敢テ之ヲ法官ニ送致スルカタ
メノミニ非ス唯タ主人ノ命令維レ守リテ防護懈リナ
キヲ明示セント欲スル一身ノ勤務ニ係レリ

然ルニ婦女ヲ防護セサル邦土ニ在テ一家主宰ノ權柄
ノ下移シテ奴隸ノ手ニ操持セシムルハ至愚ノ評ヲ下
サルヲ得ス

家奴ニ閨門ノ視察ヲ掌トラシムルハ時トシテ特別
ノ家法ト認ムル場合ナキニ非サレズ決シテ之ヲ民法
ト看做ス可ラス

第二十四 民法ヲ以テ國際法ノ當サニ決定ス

ヘキモノヲ決定ス可ラサル事

人民ノ自由ハ法律上必行ノ義務ナキヲ強迫シテ爲
サシメサル所ニ在リテ其効居多ナリトス此境域ニ住

スル人民ハ帝ニ民法ニ遵依スルノミニテ更ニ之カ爲
メ拘束セラレス而ノ全ク民法ノ治下ニ生活スルカ故
ニ亦タ自由ナルヲ得ルナリ

由是觀之其躬親ラ民法ノ下ニ棲息セサル君主ハ人ヲ
制セサレハ却テ人ニ制セラレ始終權力ノ羈轡ヲ脱シ
得サレハ之ヲ自由ヲ享ルト謂フ可ラス故ニ權力ヨリ
ナレル盟約ト雖モ猶ホ自由ノ承諾ニ依テ締結セルモ
ノニ齊シク必行ノ義務ニ任セサルヲ得ス譬ヘハ今若
シ民法ノ下ニ棲息スル吾人ニ強迫シテ法律ニ戾リタ
ル契約ヲ結ハシムル者アラハ吾人ハ則チ曲直ヲ法律

ニ訴ヘテ以テ強暴ノ魚肉タルヲ免ルヘシト雖モ居常
人ヲ制セサレハ人ニ制セラル、地位ニ立テル君主ニ
至テハ假令強迫セラレテ鈐印セル盟約ナリト雖モ事
後之ニ就テ不平ヲ訴フ能ハス之ヲ訴フハ乃チ天然
ノ境遇ニ就テ怨望スルモノニシテ其狀恰モ他ノ君主
ニ對シテ親ラ一君主タルノ體裁ヲ成シ又他ノ君主ヲ
シテ己カ臣屬タラシムルヲ欲スルニ異ナラス事理ノ
自然ニ背戾セルモノナリ

第二十一回 政法ヲ以テ國際法ニ屬スル所ノ

モノヲ決定ス可ラサル事

政法ハ須ラク各人ヲシテ性法ノ裁判義道及ヒ住國ノ民法ノ裁判ニ從屬セシメ而シテ君主ニ之カ監督權ヲ有セシムルヲ要ス

國際法ハ各國君主ヲシテ公使ヲ外國ニ差遣ヒシメ而シテソノ公使ハ敢テ駐劄國ノ君主或ハ其ノ法衙ノ管轄ニ從屬セサルハ事理ノ自ラ然ラシムル所ナリ蓋シ公使タルモノハ本國君主ノ目代ナレハ必ス言論ノ自由ヲ得サル可ラス其職務ヲ執行スルニ就テ他人ニ掣肘セラル可ラス且公使ハ全ク獨立不羈ノ人國君ノ喉舌タルヲ以テ屢尊嚴ヲ犯スノ言語アルヲ免レス故ニ若シ

自他一般ノ人民ト齊レク之ヲ刑罰ヲ受クヘキ地位ニ在シレメハ絶ヘス仇家ニ訐告セラレテ法網ニ罹ルヲ免レサルヘシ若シ負債ノ爲メニ其身ヲ捕拿セララルトセハ容易ニ贋偽ノ要求ヲ受ルニ至ルヘシ是レ天性豪邁大ニ爲ス有ル氣象ノ君主ハ謹慎小心ノ人ヲ選テ俎豆ノ間ニ周旋セシムル所以ナレハ之ヲ接受スル政府ハ須ラク駐劄公使ヲ遇スルニ政法主義ニ依ラス國際法ノ主義ヲ標準ト爲サハルヲ得ス然レモ若シ公使ノ行爲其當ヲ失シテ目代タルノ職任ニ負ク片ハ其旨ヲ本國君主ニ照會シテ之ヲ召還セシメ該公使歸國ノ

上ハ其君主我説ヲ直ナリトシテ公使ノ罪ヲ責ムル乎
或ハ我説ヲ曲トシテ公使ノ行爲ヲ贊成スル乎其處分
ニ任スヘシ

第二十二回

インカ、アトアルバノ慘狀ヲ記ス
殘酷ナル哉西班牙人ハ茲ニ論定スル所ノ主義ヲ破毀
セリ西人ハインカ、アトアルバヲ統治スルニ國際法ニ
據ラスシテ其國ノ政法民法ヲ以テシ而シテ該人ヲ罰
スルニ曾テ數妻ヲ娶レル國人ヲ死罪ニ處セルヲ罪狀
ト爲シ加フルニソノ本國ノ政法民法ヲ用キスシテ全
ク西國ノ政法民法ニ據レリ無道ノ極ト謂ハサルヲ得

ス

第二十三回

若シ當時ノ事情ニ依リテ政法却
テ國家ノ不利ト爲ルハ則チ之
ヲ維持スヘキ政法ニシテ時ニ依
リテハ國際法トナルモノヲ用キ
テ決定スヘキ事

國統繼承ノ順序ヲ定ムル所ノ政法若シ其ノ設立ノ目
的タル國家民人ノ利益ト爲ラス却テ之カ安寧ヲ害ス
ルニ至ル時ハ則チ此順序ヲ變更センカ爲メ新タニ他
ノ政法ヲ制定セサル可ラサルハ毫モ疑團ヲ懷ク所ナ

シ而シテ其ノ新舊ノ二法俱ニ齊シク人民ノ安寧ヲ以テ無上ノ法律ナリト謂フ主義ニ根據スレハ右新法ハ決シテ舊法ニ抵牾セス其ノ並行一致ヲ見ルヘキナリ

大國ニシテ他國ノ附從タレハ自ラ國勢ノ衰微ヲ招ク而已ナラス併セテ其主國ノ疲弊ヲ致ス事理ハ前編ヨリ屢論述スル所ナリ因テ知ルヘシ國家ノ利益ハ國中ニ無上ノ行政官ヲ置キ國帑ノ收歛能ク經濟ノ正理ニ適當シ濫リニ金銀外出シテ他國ノ資トナリ其ノ殷富ヲ増スニ至ラサルニ在ルヲ且夫レ外國ノ法理法訣

ハ之ヲ我國ノ舊制故法ニ比較スレハ其ノ民心ニ契合スルヤ甚タ薄弱ナルヲ以テ施治者ハ決シテ之ニ心酔ス可ラス凡ソ人情ハ酷々我國ノ舊慣故習ニ偏癖シテ移ラス是レ乃チ一社會ノ康福ヲ組織スル所ナレハ顛覆ノ大亂ヲ醸スヲ無ク億兆ノ塗炭ニ苦ムヲ無クシテ能ク一朝ニ法律ノ變更ヲ成スモノアラサルヲ古今萬國ノ史乘ニ徵シテ甚タ著明ナリ

據此觀之若シ甲ノ大國ニテ乙ノ大國ヲ所有スル人ニ國位ヲ紹續セシムヘキニ方テハ則チ承襲ノ順序ヲ改メサレハ甲乙兩國ノ利益ヲ保ツ可ラサルヲ以テ其人

ノ承襲權ヲ褫奪スルモ決シテ事理ニ戾ルヲナシ即チ
 魯國衣色別女皇治世ノ初メニ法制ヲ立テ以テ他國ノ
 君權ヲ有セル相續人ニ踐祚スルヲ許サス又葡國ノ
 法律ニ血統ノ權アリト雖モ外國人ハ決シテ王位ニ即
 ク可ラスト制定シタルハ皆ナ聞然ス可ラサル憲法ナ
 リ
 一國ノ人民ハ果シテ君位承襲ノ權ヲ褫奪シ得ヘキモ
 ノト定ムルハ更ニ國君ヲ要シテ躬ヲ王位ヲ禪讓セ
 シムルノ權アルヤ言フ俟タスシテ明カナルヘシ譬ヘ
 ハ若シ人民其君家ノ婚姻ニ依リ結局一國ノ獨立ヲ妨

ケ或ハ州郡ヲ割キテ他國ノ版圖ニ歸スルカ如キ憂患
 アルハ乃チ該婚姻ヲ契約セル人ハ論ヲ俟タス其子
 孫ニ至ルマテ永世承襲ノ權ヲ拋棄セシムルモ固ヨリ
 至當ノ措置ナリトス而ノソノ承襲權ヲ拋棄セシ人及
 ヒ之ニ連累シテ權ヲ失フ人ニ在テハ原ト承襲權褫奪
 ノ法律ヲ制定スルハ國家ノ公權ニ屬スルヲ以テ決シ
 テ之ニ由テ不平ヲ鳴スノ理由ヲ得サルナリ

第二十四回 警察規則ハ自餘ノ民法ト生質ヲ

異ニスヘキ事

宰官ノ罪人ヲ處スルヤ一ナラス或ハ刑罰ヲ加フヘキ

アリ或ハ懲戒ニ止マルヘキアリ其ノ刑罰ヲ加フ者ハ法律ノ作用ニ服從セシメ懲戒ニ止マル者ハ官威ニ服從セシムルノミ即チ甲ニ於テハ罪人ヲ社會ヨリ放逐シテ民權ヲ受用セシメス乙ニ於テハ之ヲ警戒シテ社會ノ規則ニ從テ交際ヲ爲シムルモノナリ
警察法執行ノ精神ハ法律ヲ以テ罪人ヲ責罰スルヨリモ寧ロ宰官ノ權威ヲ以テ之ヲ警戒スルヲ居多ナリトスレモ其ノ既ニ罪人ヲ糾問シ之カ刑典ヲ擬定スルニ至テハ宰官ノ權威ハ決シテ法律ノ作用ニ匹敵スルヲ得ス抑警察ノ職タル日夜陸續トシテ起ル所ノ瑣事ニ

止マリテ關係甚タ大ナラサルカ故ニ嚴格ナル章程ヲ設クルヲ要セスソノ作用ハ迅速ニシテ朝夕ニ出現スル事情ニ施スカ故ニ嚴重ノ罰典ヲ加フハ其本旨ニアラズ其處分ハ常ニ瑣末ノ事項ニ限ルヲ以テ之カ規模ヲ廣大ニスルハ其目的ニアラス之ヲ要スルニ法律ノ作用ヲ以テ治理セス規則ニ據テ之ヲ約束スルノミ故ニ警察ノ管轄ニ服從スル者ハ常ニ宰官ノ視察中ニ在ルノ理ナルヲ以テ若シ重罪ヲ犯スニ至ルカ如キハ宰官ノ失察ニ由ルト謂フモ敢テ妨ケナシ然レハ法律警察ノ二事ハ判然其區域ヲ殊ニスレハ註違違式ノ過チ

ト法憲ヲ犯スノ罪トヲ混淆ス可ラサルナリ
 故ニ伊太利ニ於テハ唯々火器ヲ攜帶スル者ヲモ死罪
 ニ處スルノ法律アルヲ以テ之ヲ濫用シテ兇業ヲ行フ
 者ノ罪ニ至テハ更ニ之ニ加フヲ得ス單ニ攜帶ニ止
 マルモノト之ヲ兇事ニ用ユルモノト其科ヲ同シクス
 物理事情ニ悖ルノ法律ト謂サルヲ得ンヤ
 加之世人ノ口ニ膾炙スル某帝カ麵包商ノ詐詭ヲ摘發
 シ之ヲ貫殺シタル所業ハ即チ恰モ土耳其ノ支丹カ其
 法ヲ施スニ方テ若シ苛虐殘酷ナラサレハ以テ執法ノ
 精神ニ非スト思フカ如シ

第二十五回

原ト特別ノ規則ニ從フヘキ事ニ

於テハ決シテ民法ノ通則ニ從フ

可ラサル事

航海ノ際、船人互ニ契約シタル民事上ノ義務ハ一切無
 效タルヘシトノ法律ハ果シテ善良ニシテ間然スヘキ
 無シトスルカフランシス、ヒラルドノ論ニ曰ク當時佛
 人ハ此法律ヲ遵奉シタレト葡萄牙人ハ否ラス、夫レ暫
 時ノ間相集リテ憂樂ヲ共ニシ君主ノ供給ヲ仰クニ因
 テ更ニ需要スル所ナク航海ノ一事ヲ除キテ他ニ目的
 ナク船中ニ於テ生涯ヲ送り敢テ社會ニ關係ヲ有セサ

ル輩ニ至テハ社會ノ義務ヲ負担スヘキ契約ヲ結フ可
ラサルナリ

ロード島人カ盛ニ沿海貿易ヲ營ム時ニ制定セシ法律
ノ精神モ亦全ク前文ト其趣ヲ同クセシモノニシテ暴
風怒濤ノ間能ク其船ニ止マル者ニ貨物ヲ併セテ一船
ヲ賞與シ船ヲ去ル者ニハ一物ヲモ所有セシメサリキ

萬法精理卷之二十六畢

萬法精理卷之二十七

何 禮之譯

第一回 羅馬承襲律ノ根原及ヒ沿革ヲ論ス

財産承襲律ノ設立ハ由來最トモ久シキニ依リ其淵源
ニ溯ホラント欲セハ前輩ノ未タ曾テ發見セザル羅馬
ノ古法律ヲ穿鑿スルノ榮ヲ占得セサル可ラス

羅馬ノ開祖羅牟彌カ其ノ版圖ニ屬セル彈丸黒子ノ一
土地ヲ臣下ニ分配シタルヲ以テ羅馬ノ財産承襲律ノ
濫觴ト認ムヘキモノ、如シ

甲家ノ財産ヲシテ乙家ニ兼併セラル、一ヲ防制スル

ニハ土地均分ノ法律ヲ制定セサレハ能ハス此ノ法律
ヲ制定スルカラニハ二類ノ相續人ノミヲ依法ノ繼嗣
ト認メテ財産ヲ承襲セシメサル可ラス其一ハ父權ノ
下ニ生活スル所ノ子女及ヒ其ノ子孫即チ嫡子嫡孫其
二ハ若シ嫡子嫡孫アラサレハ父系最近ノ親屬即チ内
戚是レナリ

故ニ母系ノ親屬即チ外戚ニ財産ヲ承襲セシムヘカラ
ス一タヒ外戚ニ承襲權ヲ得セシムレハ他家ニ兼併セ
ラレテ立法ノ精神ヲ失フニ至ルヘシ
子女ヲレテ母ノ財産ヲ承襲セシム可ラス母モ亦タ子

女ノ財産ヲ承襲スルヲ得ス若シ之ヲ許スハ一家
ノ財産ハ忽チ他家ノ所有ニ歸セサルヲ得ス十二銅表
ノ律文ニ内戚ヲ除ク外何人ニ限ラス財産承襲ノ權ヲ
有セシメサルハ母子ノ間ハ内戚ニアラサルヲ以テナ
リ

然レ氏嫡子嫡孫若クハ内戚ノ近親ニ承襲セシムル片
ハ敢テ其ノ男女タルニ就テ軒輊ヲ生スルヲ無シ何ト
ナレハ外戚ハ財産承襲ノ權ナキヲ以テ縱令嫡女タル
者承襲ノ後婚姻スルヲアルモ其財産ハ常ニ實家ノ所
有ニ止マリテ移動セサレハナリ是レ十二銅表ノ律典

ニ財産ヲ承襲スヘキ者ニ男女ヲ區別セサル所以ナリ
嫡孫ニ承祖ノ權アリテ外孫ニ之ナキモ全ク此ノ理ニ
原因スルモノニシテ財産ノ他家ニ轉移スルヲ防クニ
ハ常ニ内戚ヲ相續人ト定メサルヲ得ス是レ女子ハ父
ノ財産ヲ承襲スヘキモ其ノ所出ノ子ニ至テハ能ハサ
ル所以ナリ

於是羅馬草昧ノ世ニハ若シ土地均分ノ法制ニ抵觸セ
サルハ則チ女子ニ財産ヲ承襲セシメ之ニ抵觸スル
片ハ之ヲ許サ、ルヲ知ルヘキナリ

以上羅馬人ノ財産承襲ノ古法ナリ而シテ其ノ法律タ

ル自ラ國家ノ憲法ニ密附ノ關係ヲ有シ且土地均分ノ
法制ニ淵源スルヲ以テ決シテ其根柢ヲ外國ニ資ラス
又希臘ノ諸府ニ派遣シタル委員ノ攜帶セシ所ノモノ
ニ非サルヲヲ理會スヘシ

シオニシ、ハリカルナシ、論ニ據レバ塞爾都
爾留紀元前五百五ハ羅年爾努馬二王ノ創定ニ係ル土
地均分法ノ廢棄セラレテ行レサル所以ヲ看出シテ之
ヲ回復シ而シテ舊法ニ一層ノ効用ヲ附スルカ爲メニ故
ラニ新法ヲ制定シタリト由此觀之、爰ニ論述スル土地
均分ニ因由シテ設立シタル法律ハ全ク羅馬ノ制法者

タル三君ニ成リシト疑フ容ル可ラス
既ニ政法ニ因由レテ承襲ノ順序ヲ定メタル以上ハ國
士一己ノ私意ヲ以テ之ヲ左右スルヲ許サス即チ羅
馬國初ノ頃ニハ曾テ國士ニ遺囑ヲ作ルノ權ヲ有スル
モノアラザリシナリ然レ氏終焉ノ期ニ臨ミテ平生ノ
情誼ニ酬ヒ或ハ慈惠ヲ施スヘキ餘地ヲ保タシメサル
ハ頗ル刻薄ニ涉ルノ嫌アルヲ以テ更ニ一ノ調停法ヲ
設ケタリ

財産承襲ノ事ニ就テ制法者ハ法律ヲシテ私人ノ情願
ト協和セシムヘキ調停法ヲ造作シテ國士ニ所有ノ財

産ヲ公會ノ處分ニ委托スルヲ許容セリ於是乎私人
ノ遺書ニ稍立法權ノ議定ニ類似スル效用ヲ得セシメ
タリ

十二銅表ノ律典ハ遺囑ヲ作ル人ニ其意ニ適セル國士
ヲ擇テ己カ相續人ト定ムルヲ許容シタリ而メ斯ク
羅馬ノ法律ニ於テ遺囑ヲ作ラス死去セシ者ノ財産ヲ
承襲スベキ人數ニ嚴密ナル制限ヲ立タル所以ハ全ク
土地均分ノ法制アルニ由レリ又羅馬ノ法律ヲシテ遺
囑ヲ作ル者ノ權カヲ著シク擴充セシメタル所以ハ蓋
シ父ハ子女ノ身ヲモ賣鬻スルノ權アルヲ以テ其ノ財

產ヲ與奪スルカ如キハ理ノ當サニ然ルヘキニ由レリ
故ニ此二法ハ其ノ由テ出ル所ノ主義初メヨリ同シカ
ラサルヲ以テ其效果モ亦相異ナレリ乃チ之ヲ羅馬法
律ノ精神トス

雅典ノ舊法ハ國士ニ遺囑ヲ作ルヲ許サル制度ナ
レ氏拔倫ハ子女アル者ヲ除ク外ハ皆ナ之ヲ爲スヲ
許容シタリ然ルニ羅馬ノ制法者ハ專ラ父權ノ擴張ニ
ノミ注意セシヲ以テ縱令子女ノ損害タルヘキ遺囑ヲ
作ルモ亦之ヲ許容スルニ至レリ其ノ事理ニ悖戾セル
ヤ迫カニ雅典古法ノ上ニ在リ羅馬人ハ遺囑ヲ作ル

自由ニテ更ニ之ヲ約束スヘキ制限アラサルヨリ其
弊漸ク土地均分ノ政法ニ影響シテ綱紀廢弛シ富有ノ
モノハ一人ニシテ數家ノ股分ヲ兼併シ貧民ハ尺寸ノ
地ヲ得サルモノアリ貧富甚ク懸隔シテ無産ノ民日ニ
増加スルニ從テ股分ヲ失ブモノハ蜂起シテ新タニ土
地ノ分配アラントテ請求セリ故ニ羅馬ニ於テ貧民生
計ニ苦シムコリ政府ニ要求ヲ爲シタルハ儉嗇質素
ノ時世ニ之ヲ見ルノミナラス奢侈ノ極度ニ達シタル
時世ニモ亦見ルヘク其原因ハ全ク兼併ノ弊行ハルハ
ニ在リ

遺囑ハ恰モ民會ニテ議定シタル法律ニ異ナラス兵後
ニ就ク者ハ之ヲ作ルノ權ナキヲ以テ民會ハ特ニ兵士
ニ付與スルニ其ノ夥伴ノ面前ニ於テ遺囑ヲ作ルヲ猶
ホ之ヲ民會ニ於テスルト一樣ノ殊典ヲ以テセリ
大民會ハ一年二會ノ舉行ニ過キス加フルニ民口ノ蕃
息ニ從テ議定スヘキ機務モ亦増加シタルカ爲メニ人
民ハ一體ノ國士カ民會ノ目代タルベキ耆老人ノ面前ニ
於テ遺囑ヲ作ルヲ許容スルヲ當時ノ便法ナリト裁
定シタリ此目代ハ五名ノ國士ヨリ成リ相續人ハソノ
面前ニテ遺囑ヲ作レル人ノ家産ヲ購求シ而ノ當時羅

馬ニハ未タ貨幣ノ製アラザルヲ以テ他ノ一名ハ天秤
ヲ携ヘ來リテ財産ノ價ヲ秤量セリ
此五名ノ國士ハ全ク人民五族ノ目代ナリ而ノ第六族
ハ絶テ財産ヲ所有セサル者ヨリ成ルカ故ニ目代ヲ出
スヲ要セサリキ

吾人ハ入斯底居安ノ新法ノミヲ觀ルニ因テ一概ニ此
賣買ヲ無形ノモノト速了ス可ラス必竟時世ノ變遷ニ
從テ漸ク無形ノモノト成リタレトモ其初ハ皆ナ實産
ノ買賣ナリシヲハ爾後遺囑ノ事ニ係レル法律ノ中十
ノ八九ハ一モ實際ノ賣買ニ施行セサルハ無キヲ以テ

知ルヘシ又由路比那律ノ殘篇ニ於テ聾者啞子乃至浪費者ニ遺囑ヲ作ルヲ許サ、ルヲ觀テ之ヲ明證スヘシ是レ聾者ハ家産ヲ購求スル者ノ言語ヲ聞キ能ハス啞子ハ價格ヲ言定シ能ハス浪費者ハ治産ノ禁ヲ蒙ルヲ以テ之ヲ賣却シ能ハサレハナリ其他尚ホ類例ニ乏シカラサレト冗長ニ涉レハ之ヲ略ス

遺囑ハ民會ニテ之ヲ作ルハ理ノ至常ナルヲ以テ其ノ制定ハ民法ニ於ルヨリモ最モ政法ニ關涉シ私權ニ於ルヨリモ最モ公權ニ屬スルモノナリ故ニ父タル者ハ其ノ子未タ父權ヲ免カレサレハ之ニ遺囑ヲ作ルヲ

許可スルヲ得ス

抑々遺囑ハ彼我互ニ契約ヲ結フモノヲシテ其意趣ヲ説明セシムルニ止マレハ雙方等シク私權ヲ舉行スルニ過キサルカ故ニ遺囑ヲ作ルノ法式モ敢テ通常ノ契約ヲ結フニ異ナルヲナシ是レ各國普通ノ慣例ニシテ獨リ羅馬人ノミ然ラストス蓋シ該國民ノ遺書ハ其源ヲ公法ニ資ルヲ以テ一層嚴格ナル法式ヲ用キテ之ヲ自餘ノ常務ト區別セサルヲ得ス我カ郡縣ニシテ羅馬律ヲ守ル所ニ於テハ今日尚ホ此法式ヲ實施スルヲ見ルヘキナリ

スレテハ其效力ニ依テ遺産ヲ讓與シ能ハサル法訣ノ
由テ生スル所ナリ於是遺書ニハ一定ノ場合ニ由リ相
續人ヲ交替シ得ヘキ效力アリトスルモ更ニ不當ヲ覺
ヘス而レテ他ノ相續人ニ遺産ヲ紹續セシムルコト命
令シ得ヘシト雖モ決シテ依托ノ讓與即チ請願ノ詞ヲ
用キテ以テ他人ニ其遺業ヲ返却セシムルコトヲ約束シ
能ハサルナリ

倘シ父未タ其子ヲ立テ、相續人ト定メス又敢テ其子
ノ相續權ヲ奪フニアラサル時ハ其遺囑ハ乃チ無効ナ
リトス女子ニ於ルカ如キハ然ラス其女ノ相續權ヲ奪
フニアラス又之ヲ相續人ト定メサルモ其遺囑ハ有效
ノモノト爲ル其理甚タ略易シ何トナレハ父其子ヲ相
續人ト定メス又其相續權ヲ奪フニアラサル時ハ孫々
ルモノ、權利ヲ妨害ス是レ孫ハ其父ヨリ遺囑ナキ祖
父ノ基業ヲ相續シ得ヘケレハナリ然レモ父其女ヲ相
續人ト定メス又其相續權ヲ奪フニアラサル時ハ敢テ
孫女ノ權利ヲ妨害セス是レ孫女ハ固ト相續人ニアラ

ス又内戚ノ親ニシテサルヲ以テ遺囑ナケレハ初メヨ
リ母ノ財産ヲ紹續シ得サレハナリ
財産相續ニ係ル羅馬ノ古法ハ乃チ土地均分ノ制ヲ設
クルト同一ノ精神ニ出テタルヲ以テ婦女ヲ約束シテ
其富ヲ制限スルニ足ラス故ニ始終富ニ伴フ所ノ奢侈
ヲ養成スルノ門關ヲ開ケリ阜丘ノ第二役第三役起ル
頃ニ至テ人民始テ其ノ弊ヲ覺リテ憂慮措カス遂ニ認
格法律ヲ制定セリ然リ而シテ此法律ヲ制定セシ趣意
ハ頗ル深遠ニシテ容易ナラス且今日ニ方テ其ノ源流
ヲ審ニセント欲スルモ文獻ヲ徴スベキモノ多カラサ

ルノミナラス諸子ノ論說甚タ紛々トシテ錯雜スルカ
故ニ其要領ヲ得難シ余茲ニ之ヲ剖析説明スルノ勞ニ
任セントス

既婚未婚ノ論ナク總テ女子ヲ相續人ト爲スノ禁令ハ
西塞魯ノ保存セル法典ノ殘篇中ニ掲ケタリ

此法律ヲ論セル李淳ノ略說中ニハ更ニ此事ニ就テ他
ニ論述スル所アルヲ見ス西塞魯及ヒ聖奧古斯丁ニ據
レハ女ハ獨子ト雖モ相續人タルノ禁令中ニ包括セラ
ル、カ如シ

加多ハ畢生ノ力ヲ盡シテ以テ此法律ノ制定ヲ督促シ

タリオールユス、ゼルリユースハ加多ガ此時ニ演說シタル
議論ノ斷篇ヲ引證シテ曰ク其ノ女子ノ相續ヲ防制レ
タルハ專ラ奢侈ノ根本ヲ斷絶スルノ主意ニ出テ而メ
其精神ハ即チオピアン律ヲ保持シテ以テ奢侈ノ本體
ヲ抑制セントスルニ異ナラスト

入斯底居安及ヒ帖阿非流二帝ノ律典ニハ忽格丘律中
ニ遺囑ヲ作ル權力ヲ制限スル一篇ヲ掲載セリ誰何ヲ
論セス凡ツ此律典ヲ讀ハモノハ蓋シ該篇ノ趣意ハ專
ラ遺囑ヲ作ルニ依リテ其基業ヲ消盡シ遂ニ相續人ノ
之ヲ承襲スルヲ屑トセサルニ至ルノ弊害ヲ防制スル

爲メニ制定セシモノト想像セサルハナカルヘシト雖
モ未タ以テ忽格丘律ノ精神ヲ看破スルニ足ラス其ノ
遺業ヲ讓ルノ權力ヲ制限スル章目ヲ觀レハ真意トス
ル所ハ全ク女子ヲレテ基業ヲ承續セシメサルニ在ル
ヲ知ルヘシ其ノ故ハ若シ人民ヲレテ隨意ニ其ノ基業
ヲ讓與スヘキ自由ヲ得セシムルハ則チ女子ハ贈遺
ノ方便ニ依テ却テ以テ紹續權ノ許サ、ル所ノモノヲ
得ヘキニ至レハナリ

忽格丘律制定ノ主意ハ女子ヲレテ大富ヲ有セシメサ
ルニ在リ故ニ女子ヨリ大業ノ紹續權ヲ褫奪シテ唯タ

生計ニ安スルニ足ラレメ以テ過度ノ奢侈ニ誘進セシメサルヲ主眼トス其法制タル女子ニシテ財産ノ承襲權ヲ剥奪サレタルモノニ附與スヘキ金額ヲ一定シタリ但レ該法ヲ制定セル西塞魯ノ書ニハ金額ノ多少ヲ載セス之ヲ確知スルニ由ナケレトモ第阿ニ據レハ十萬セストルスヲ極度ト爲セリ

該法制ハ全ク富驕ノ源ヲ澄清スルモノニシテ決シテ貧者ヲ束縛スルニアラサレハ西氏ノ言ニモ其ノ法制ノ及フ所ハ唯タ監察官ノ簿冊ニ姓名ヲ登録シタル富家ニ限リテ之ヲ實施シタルヲ記セリ

西氏ノ此言ニ據リテ復タ人民ニ法網ヲ免脱セシムヘキ口實ヲ與フヲ見タリ蓋シ羅馬人ハ酷タ法制ノ整肅ナルノ好ムノ志癖アリ加フルニ法典ノ成文ヲ墨守スルハ共和政ノ精神ナルヲ以テ羅馬人ハ父權ノ作用ニ依テ其女ニ承襲權ヲ遺付シ得レハ其姓名ヲ監察官ノ簿冊ニ登録スルヲ肯セサルモ大法官ハ忽格居律ノ成文ニ抵觸セサル旨ヲ以テ裁斷ヲ下シタリ

アニユス、アセルユスナル者アリ特リ其女ヲ己カ相續人兼遺書執行者ト定メタリ西氏ハアセルユス素ヨリ此處分ヲ爲スノ權利ヲ有シ且ツ監察官ノ簿冊ニ姓名ヲ登

録セサルヲ以テ忽格居律ノ範圍外ニ在リト承認シタ
リ然ルニブルレスが大法官ノ職ニ就クニ方テ直ニア
セルユスノ女ノ承襲權ヲ褫奪シタリ於是西塞魯ハ此裁
判ヲ駁シテブルレスハ必ス賄賂ヲ受ケシナラン然ラ
サレハ前ノ大法官カ協同ノ上ニ決定シタル案件ヲ移
動スルノ理ナレト主張セリ

然ラハ則チ羅馬ノ自主民ガ悉皆記名シタル監察官ノ
簿冊ニ獨リ之ヲ除免シタルハ果シテ何等ノ族類ニ係
ル乎茲ニハリカルナレユスノ著セルジオニレユス紀
ニ載セタル塞爾彪都爾留ノ律典ニ據レハ凡ソ監察官

ノ簿冊ニ記名セサル自主民ハ奴隸ノ身分ニ墜落セサ
ルヲ得ス西塞魯ト雖モ記名セサル者ノ自由權ヲ褫奪
スルトニ左祖シ次テゾナス之ヲ贊成シテ其議遂ニ
一決セリ由是觀之忽格居律ノ主義ニ從テ姓名ヲ登録
セサルト塞爾彪都爾留ノ律典ニ依テ記名セサルトノ
間ニハ必ス一定ノ差別ナキヲ得サルト知ルヘキナリ
羅馬府民其家産ノ貧富ニ應シテ立タル等級ノ中ニテ
初ノ五族ノ間ニ姓名ヲ列セサル者ハ即チ忽格居律ニ
據テ監察官ノ簿冊ニ記名セザルモノニ屬シ第一族ヨ
リ第六族マテニ記名セス或ハ監察官ニ於テアエラリ

ト稱スル賤民ニモ齒列セサルモノハ即チカルフエ
スニ據テ監察官ノ簿冊中ニ包括セラレザルモノニ係
ル然ルヲ以テ父タル者ハ忽格屋律ヲ避シカ爲メニ往
々資産ヲ有セス唯タ人頭税ノミヲ納ムル所ノ第六族
ノ卑賤ニ列スルノ耻辱ヲ甘受スルニ至ルハ蓋シ自然
ノ潮勢ニシテ區々タル人法ノ得テ制スル所ニアラザ
ルナリ

然ルニ他書ニ於テハ亦羅馬ノ法律ニ依托ノ讓與ヲ許
可セサリシヲ見出シタリ是レ忽格屋律ヲ迴避セン
トヲ希望スルヨリ依托ノ讓與ヲ爲スノ弊風盛ニ行ハ

ル、ノ原因ト爲リ而シテ人民ハ初ノ法律上ノ資格ヲ
具ヘタル相續人ヲ設ケ該相續人ニ依托シテ資格ナキ
者ニ紹續權ヲ再讓セシム其ノ處分ノ方法既ニ舊貫ヲ
失スルニ由テ忽チ人民ノ家産ニ不平均ノ影響ヲ生シ
或ハ直チニ遺業ヲ他人ニ讓與スル者アリ就中セキス
チニスベジュセユスナルモノ、行爲ノ如キハ甚タ著明ナ
リ即チ該氏ハ遺囑ヲ作レル人ヨリ夥シキ財産ヲ相續
シタレハ當時皆チ氏ノ眞有ニ屬スト信シテ疑ハサリ
シニ詎ソ料ラン遺囑主ノ寡婦ヲ訪フテソノ亡夫カ所
有シタル家産ヲ悉皆讓與セリ或ハ又遺業ヲ直チニ他

人ニ讓與セスシテ所有スルアリ即チセツキスチリユス、
ルノフースナル者其一例ニシテ西塞魯ガエピクユリヤ
ノ學黨ニ抗論セシ時ニ之ヲ引用シタルヲ以テ一時衆
人ノ視聽ヲ駭カセリ西氏ノ言ニ曰ク予カ少年ノ頃曾
テセツキスチリユスノ請ニ應シテ其女フエジヤナル者ニ
クインチユス、フュジュス、カルリユスノ遺業ヲ收回セシムベ
キヤノ理否ヲ知ラシ爲メニ友人ノ家ニ同行セシニ該
家ニ到レハ老少ノ數客アリテ頗ル事理ニ練達セル者
尠ナカラス然レモセツキスチリユスヲシテ忽格臣律ノ
制限ヲ超エテフエジヤニ讓與スヘシト發議スル者

一人モナレ故ニ古ノ一大基業ハ終ニセツキスチリユス
ノ所有ニ歸セリ當時若シセツキスチリユスヲシテ便利
ヲ棄テ公義ヲ守ラシノハ一セストルス^レノ微ヲモ保有
スル^一能ハサルヘシト又其ノ言ニ曰ク思フニ汝等カ
遺業ヲ抛却セシノミナラスエピクユルユスモ亦躬ラ之
ヲ抛却セシナルヘシ但汝等ハ一己ノ主義ニ從ツテ進
退セザルナルヘシト茲ニ暫ラク筆ヲ擱シテ回想スル
^一アラントス
制法者ハ時トシテ自然ノ理ニ相反セル法律ヲ制定ス
ルノ己ムヲ得サル^一アリ人類免ル可ラサルノ不幸ト

謂フヘシ忽格屈律ノ如キ即チ其的例ニシテ之ヲ制定
セシ理由ハ他ナシ唯々制法者ノミ國士ヨリモ寧ロ社
會ノ公利ヲ考慮シ一私人ヨリモ寧ロ一國士ノ利益ヲ
考慮スルヲ以テ此法律ハ乃チ共和政ノ昌盛ヲ謀ルニ
汲々トシテ國士私人ノ損害ヲ顧ミルニ違アラサルナ
リ譬ヘハ一人アリ其女ニ再讓セシメンカ爲ノニ依托
ノ讓與ヲ行フニ法律ノ見點ニテハ更ニ父ノ慈愛、女ノ
孝順ニ著目スルヲ無ク專ラ遺業ヲ依托セラレタル者
ノ如何ヲ注視シ唯々依托ヲ受クル者ヲシテ進退兩難
ノ逆境ニ陷ラシムルノミ何トナレハ若シ其遺業ヲ返

却スレハ違法不良ノ國士タラサルヲ得ス或ハ之ヲ保
持シテ自己ノ所有ト爲ス片ハ道德ノ罪人タルヲ免レ
ス然ルニ此法律ヲ迴避センヲ圖ルモノハ概メ良民
善士多キニ居リ而モ之ヲ委托セルト欲スル人ヲ揆ハ
ニモ亦タ正直ノ人物ニシテ滿腔ノ誠意能ク貪欲ノ情
ヲ制シ富樂ニ戰テ克ツモノニ非サルヨリハ終身ノ儲
積ヲ寄當レテ安心瞑目シ能ハサレハナリ據此觀之依
托ノ讓與ヲ行フモノヲ一概ニ違法不良ノ國士ト認ム
ルハ頗ル嚴酷ニ失スルノ清議ヲ免レサレハ願フ所ハ
制法者法律ノ精神ヲ執リ之ヲ施行スルニ方リテ多少

斟酌スル所アリ法網ヲ遁ル、モノハ金ヲ誠實ノ人ニ
限リテ奸黠ノ徒ニ愚弄サレサルニ在ルノミ
忽格屋律議定ノ時マテハ羅馬人尚ホ古代淳朴ノ風俗
ヲ存シ時々天賦ノ良心發動シテ此法律ヲ愛重レ之ヲ
遵守スヘキヲモ誓約シタレハ恰モ誠實ノ心自ラ相
闘ヒ相克スルノ状態ナリシカ其後德義頽敗ノ極ニ至
テハ制法者忽格屋律ヲ遵守セシムルニ盡力セサル
モ依托ノ遺業其效力ヲ失シテ法網ヲ免脱セント欲ス
ルモノ自ラ減少セリ

内亂ノ一舉ニテ羅馬ノ國士滅亡シテ殆ト子遺ナク奧

古斯都帝ノ治世ニ至リ人烟稍衰殘シテ無人ノ景況ヲ
現セリ是ニ於テ專ラ戸口蕃息ノ政略ヲ運ラサ、ルヲ
得ス乃チ巴比亞律ヲ制定シ其ノ作用ニ依テ國士ニ婚
姻ヲ結ハシメ子女ヲ生育セシムル事ヲ勸誘スル方便
ヲ設ケテ復タ餘蘊アルヲ無シ其ノ眼目トスル所ハ此
法律ニ服従スル者ニハ相續人タルノ希望ヲ増加シ之
ニ服従セサル者ハ其ノ希望ヲ減少スルニ在リ故ニ忽
格屋律ニテハ女子ノ遺業紹續ヲ禁制セシムル少ナカラ
サルヲ此法律ニ依リテ解除スルヲ頗ル多シ
巴比亞律ハ女子ニ其夫ノ遺囑ヲ以テ遺業ヲ受得スル

「ヲ」許容シ其ノ子女ヲ生育スルモノニハ他人遺囑ノ遺業ヲモ受得セシメタリ此諸項皆ナ直接ニ忽格屋律ニ反對セシカトモ未タ全ク該律ノ精神消滅セサリシハ亦一奇ト謂ハサル可ラス譬ハ男子ナレハ一子ヲ有シテ他人遺囑ノ遺業ヲ全受スル「ヲ」許容スレハ女子ハ三子ヲ生育スルニアラザルヨリハ同一ノ特典ヲ得ル「ヲ」能ハス

爰ニ又新古二律ニ注目スヘキ一事アリ新律ハ三子ヲ生育スル女子ニ他人遺囑ノ遺業ニ限リテ之ヲ紹續スル「ヲ」許容シ親屬ノ遺業紹續ニ至テハ必ス古法即チ

忽格屋律ヲ遵奉シタリ然レハ古律ハ未タ久レカラスシテ其ノ效力ヲ失ヘリ

羅馬ハ各國人民ノ富ヲ一府ニ聚斂シ之カ爲メニ人情驕慢風俗日ニ澆漓ニ赴キ更ニ女子ノ奢靡ヲ抑制セント憂慮スル者ナレハ哈的鍊帝ト世ヲ同クセルオールスセルゴースノ言ニ據レハ當時既ニ忽格屋律ハ羅馬府民ノ富奢ニ壓倒セラレテ殆ト其效力ヲ奏スル「ヲ」能ハスト又ナイケル帝時代ノプォールスノ判文及ヒアレキサシンドルセブルユス時代ニ制定シタル由路比那ノ斷簡ヲ閱スルニ女子ト雖モ父方ノ姊妹ニ列スレハ遺業紹

續ノ權ヲ享得スヘク其ノ忽格屈律ノ範圍ヲ脱シ能ハ
サルハ獨リ疎族遠親ニ限ルヲ看出セリ

人心ノ變遷ニ從テ古法舊律ノ嚴酷ニ過キルノ感覺ヲ
起シ爾來大法官ハ專ラ公義節度ト情法酌量ヲ以テ判
斷ノ基礎ト爲シ敢テ法律ノ明文ノミヲ固執セザル
トハナレリ

羅馬ノ古律ニ據レハ原來母ハ絶テ其ノ子女ノ遺業ヲ
紹續スルノ權理無シ是レ忽格屈律中ニ母ヲ除去スヘ
キ新理アルニ因テ然カリレガクローヂュス帝ハ母タル
モノ、子女ヲ喪ヘル憂苦ヲ安慰スルカ爲メニ特ニ子

女ノ相續人タルヘキ殊典ヲ授與シ又哈的練帝ノ時ニ
發行シタル元老院ノ議定書ニテハ其母自主民ナレハ

三子若シ原ト奴隸ニシテ解放サレタル自主民ナレハ

四子ヲ生育マルキハ則テ子女ノ相續人タルヲ許容

セリ此議定書ハ當ニ巴比亞律ニ於テ女子ニ他人遺囑

ノ基業紹續ヲ許容スルモノヲ擴充スルニ過キス終ニ

入斯底屈安帝ニ至テ子女ノ員數ニ係ラス有子ノ婦ニ

ハ一般ニ遺業紹續ノ權理ヲ付與シタリ

女子ノ紹續權ヲ拘束セル巴比亞律ノ效力ヲ弛緩ナラ

シノタルト全一ノ原因乃チ漸クニ外戚ノ親ノ紹續ニ

制限ヲ加ヘタル法令ヲ廢絶セシメタリ蓋シ此等ノ法律ハ女子ニシテ大富ヲ擁シ或ハ其ノ希望ヲ生スルヲ阻格シテ奢侈ノ誘原ヲ未然ニ杜絶スルガ如キ權力ヲ具有スレハ極メテ共和政ノ精神ニ適當シテ必須缺ク可ラサル功令ナリト雖モ立君政ヲ行ヒ奢侈ヲ尚フニ及テハ婚禮ヲ舉行スルニモ費用浩繁ニシテ咄嗟ノ能ク備辦スヘキニ非サルヲ以テ須ラク女子ニ准許スルニ富ヲ儲積スルノ便宜ト遺業紹續ノ希望トヲ以テ其奢侈ヲ勸誘セリルヲ得ス是レ羅馬ノ立君政タル時ニ際シテ遺業紹續ノ制度一變シタル所以ナリ抑モ古律

ニ據レハ外戚ノ親ハ遺業紹續ノ權ヲ有セサリシカ立君政タルノ後ハ若シ内戚ノ親ナキニ會フハ則チ大法官ニテ外戚ノ親ニ之ヲ紹續セシメオルピチアシノ元老院議定書ニテハ子女ニ母ノ遺業ヲ紹續スルヲヲ許可シワレンチニアシテヲドレユスアルカジュース諸帝ハ外戚ノ孫ニ祖父ノ遺業ヲ紹續スルヲ許可シ結局入斯底居安帝ニ及テ一筆ニ紹續權ノ古跡ヲ抹殺シテ男女ノ別内戚外戚ノ差ヲ立テス都テ相續人ヲ卑系即チ子孫尊系即チ父祖及ヒ支親傍系ノ三等ト定メテ當時尙ホ遺存シテ實踐セル所ノモノヲ廢棄シ而シテ

躬ヲ天理ノ自然ニ循テ以テ古法學ノ葛藤ヲ斬斷セリ
ト信認シタリ

萬法精理卷之二十七畢

明治八年十一月廿八日版權免許

繙譯並出版人 何 禮之

東京富士見町四丁目十一番地

馬喰町二丁目

芝太神宮前三島町

島村利助

日本橋通三丁目

山中市兵衛

發兌 書林

南傳馬町二丁目

丸家善七

穴山篤太郎